

千葉県生物多様性センター 年報 3

平成 22 年度（2010年 4 月～2011年 3 月）



千葉県生物多様性センター
Chiba Biodiversity Center

はじめに

平成 22 年 10 月 18 日から 29 日まで愛知県名古屋市において生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）が開催され、世界各国の政府や NGO が集まり、今後の生物多様性の保全と利用について議論されました。その結果、2011 年以降の新たな世界目標となる「愛知目標」が採択され、また遺伝資源の利用から生じる利益の公正かつ衡平な配分のルールを定めた「名古屋議定書」が採択されるなど、平成 22 年は生物多様性の保全における大きな節目の年となりました。

本県では、COP10 に向けて、県内各地で生物多様性巡回展を開催するなど、重点的に普及啓発に取り組みました。さらに、COP10 の期間中は、生物多様性交流フェア会場に展示ブースを出展して本県の取組を紹介しました。

一方、COP10 開催を契機として、全国各地で生物多様性地域戦略の策定が進められ、これに伴い、本県戦略の策定過程や生物多様性センターの取組について、各地の地方自治体や議会などから頻繁に視察を受けました。

このように全国的に注目を集める中、本県の取組も平成 22 年度で 3 年目となり、レッドデータブック（動物編）改訂版の作成、絶滅危惧種の回復計画に基づく事業展開、生命のにぎわい調査団員の 600 人突破、ちばの里山里海サブグローバル評価最終報告書の作成などの成果を上げてきました。

しかしながら、生物多様性に関する社会的な理解や関心は、いまだ十分とは言えず、さらなる普及啓発の必要性を感じているところです。生物多様性センターでは、今後とも様々な取組と、多様な主体との連携を推進していくこととしており、その取組を通して、より多くの方々に生物多様性に関心を持っていただければと考えております。

平成 24 年 3 月

千葉県環境生活部自然保護課長 玉井日出夫

表紙の写真：生命のにぎわい調査団平成 22 年度写真コンテストの最優秀賞

「獲物はでかいぞ！（ニホンイタチ）」撮影：和田敦子

ニホンイタチ（食肉目イタチ科）は、カエル、ザリガニ、魚からネズミまで食べる雑食性の中型獣で、県内に広く分布しています。細長いしなやかな胴体に短い四肢があります。オスに比べてメスは小さく、体格差があります。水辺に近い土に穴を掘って巣をつくります。この写真は、日本の在来種であるイタチが特定外来生物のウシガエルを捕え、意気揚々と巣穴へ帰る様子で、眼がしっかりと光っています。

裏表紙の写真：生命のにぎわい調査団平成 22 年度写真コンテストの優秀賞

「獲ったどおー！（ミサゴ）」撮影：和田信裕

ミサゴ（タカ目ミサゴ科、千葉県レッドデータブックのカテゴリー B 重要保護生物）は、主に魚食性のタカの仲間で、海岸・湖沼等に生息し、上空から水面に突入して、脚でがっしりと魚を捕らえます。まるで魚雷を抱えた戦闘機のような姿です。ミサゴは、浅瀬や湖沼の水質の環境悪化の影響を受けやすいとされ、県内では繁殖が確認されていません。

生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）関連行事への参加



生物多様性交流フェアで口頭発表



生物多様性交流フェア、千葉県ブース



生物多様性国際自治体会議でポスター発表



いきものみつけシンポジウムで口頭発表



千葉県ブースは連日多くの方々の訪問を受けた



将来、この子供たちが日本の生物多様性保全を担ってくれる

生物多様性センターの様々な活動



学校ビオトープフォーラム（県立中央博物館）



生命のにぎわい調査団現地研修会（勝浦市）



第41回ガスフェスタ 出展（習志野市）



エコメッセ2010 in ちば 出展（千葉市）



第5回企業と生物多様性セミナー（ビオトープそが）



シャープゲンゴロウモドキ生息地保全活動

もくじ

はじめに i

 COP10 関連行事への参加（写真） ii

 生物多様性センターの様々な活動（写真） iii

 もくじ iv

I 生物多様性センターの概要

 組織・分掌等 2

 センターの機能 3

 平成 22 年度活動カレンダー 4

II 平成 22 年度主要事業のまとめ

 絶滅危惧種の保護にむけて 6

 絶滅の危険性を評価 8

 外来生物の脅威から生態系を守る 10

 哺乳動物と人との共存をめざして 12

 里山里海の再興と生物多様性豊かな

 持続可能な社会へのシナリオ 14

 生物多様性情報の収集・管理・提供 16

 県民参加型の生物モニタリング調査 18

 C O P 1 0 関連行事による普及啓発活動 20

 ウェブサイトによる情報発信 22

 生物多様性ちばニュースレターの発行 23

 イベントによる情報発信 24

 学校ジオトープの推進 26

 流域を一体的に捉えた生物多様性の保全・再生 28

 多様な主体との連携・協働 30

 大学との連携 31

 企業との連携 32

III 平成 22 年度他機関への支援活動・研究業績等のまとめ

 他機関への支援活動 34

 情報発信 35

 研究業績等 36

I

生物多様性センターの概要

生物多様性センターの概要

1 設置の目的

生物多様性センターは、平成 20 年 3 月 26 日に策定された「生物多様性ちば県戦略」の推進を図ることを目的に、平成 20 年 4 月 1 日に設置されました。

2 設置場所

生物多様性センターは、千葉県立中央博物館の中に設置されており、中央博物館と連携を保ちながら業務を行っています。

住所：〒260-0852

千葉市中央区青葉町 955-2（千葉県立中央博物館内）千葉県生物多様性センター

電話：043-265-3601

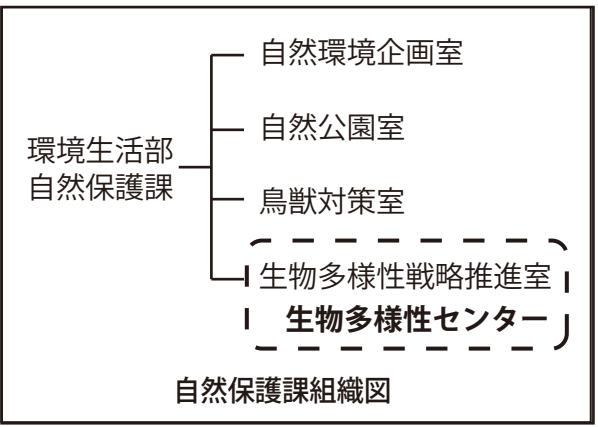
FAX：043-265-3615

e-mail：bdc@mz.pref.chiba.lg.jp

3 組織

生物多様性センターは、右図のとおり千葉県環境生活部自然保護課生物多様性戦略推進室に属し、一体となって下記の分掌にあたっています。

平成23年3月現在の生物多様性センターの職員は10名です。



4 主な分掌

生物多様性センターを含む生物多様性戦略推進室の平成 22年度の主な分掌は下記のとおりです。

- ・生物多様性ちば県戦略の推進に関すること。
- ・生物多様性に係る基礎情報の充実・提供に関すること。
- ・生物多様性に係る地域等の取組支援に関すること。
- ・生物多様性に係る環境学習の推進に関すること。
- ・希少野生動植物の保護に関すること。
- ・外来生物（アカゲザル、アライグマ、キョンを除く）の対策に関すること。
- ・三番瀬等の自然環境調査（助言等）に関すること。
- ・生物多様性についての情報収集、管理、提供に関すること（シンクタンク機能）。
- ・生物多様性についての教育普及に関すること。
- ・生物多様性の保全・再生・利用のための現場指導に関すること。

生物多様性センターの概要

5 機能

生物多様性センターでは、「生物多様性ちば県戦略」を推進するため、下記の機能を整備していきます。

○生物多様性に関する情報の収集・管理、提供・公開

生物多様性に関する各種情報を収集し、提供します。

千葉県の保有する生物多様性に関する既存情報を整備し、地理情報システム上で一括管理します。

今後新たに得られた情報についても効率的に収集するシステムを構築し、順次整備していきます。

地理情報システム上でデータベース化された情報は、生物多様性の効果的な保全に活かされます。

これらの情報を様々な形式で一般の方から研究者まで広く提供します。

○生物多様性に関する調査研究

生物多様性に関する調査研究を推進し、かつ、モニタリング体制を整備します。そのため、野生動植物の生息・生育状況とその経年変化を把握し、地球温暖化等の気候変動や人間活動が生物多様性に与える影響を探り、その対策を研究します。

○シンクタンク機能

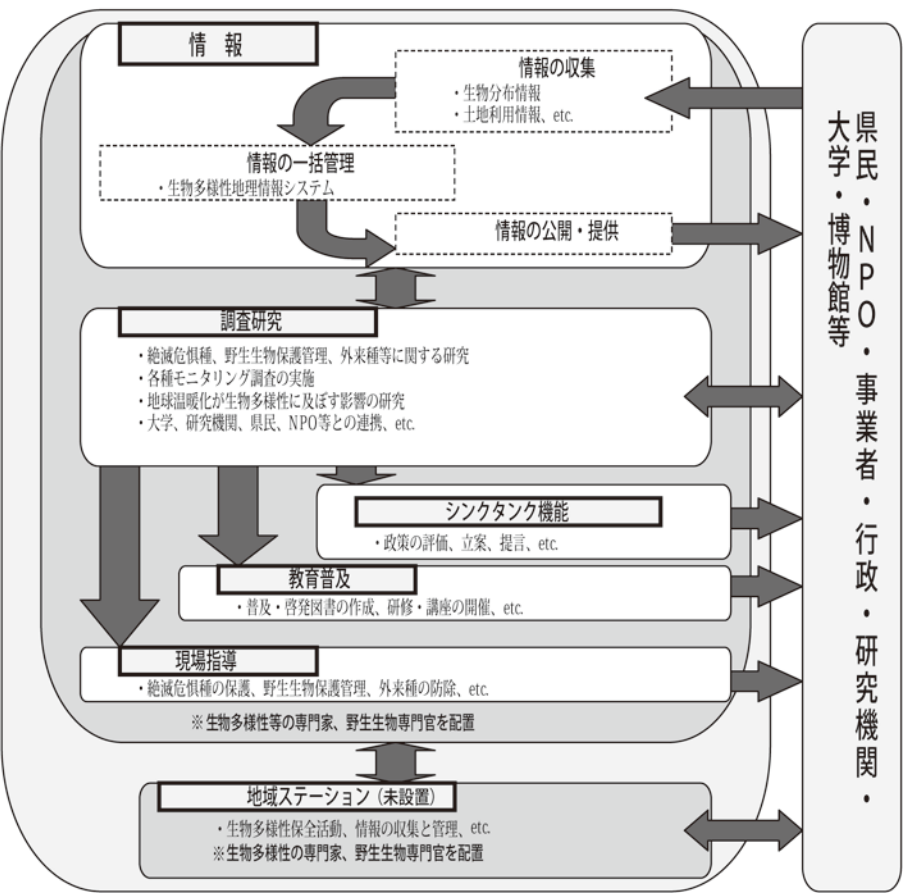
科学的な根拠に基づき、施策の評価、立案、提言を行います。

○生物多様性に関する教育普及

「生物多様性」及び「生物多様性ちば県戦略」の普及・啓発を図るため、各種図書の作成をはじめ、ニュースレターの発行、研修会・講座の開催等を行います。

○生物多様性に関する現場指導

野生動植物の保護管理、生態系の保全・再生、生物多様性を一体的にとらえた地球温暖化対策の推進等、現場に即した指導・助言を行います。



生物多様性センター機能概念図

平成 2 2 年度活動カレンダー

2010

- (平成 22 年) 4 月 ・第 3 回企業と生物多様性セミナー「生物多様性が招く企業リスク」開催 4/19
- 5 月 ・生命（いのち）のにぎわい調査団現地研修会 於：中央博物館分館海の博物館前の磯 5/30
- 6 月 ・第 13 回船橋環境フェア 出展 於：船橋中央公民館 6/5
- ・環境フェア出展 於：イオン津田沼ショッピングセンター 6/10-13
- ・第 4 回企業と生物多様性セミナー「生物多様性への影響緩和のために」開催 6/18
- ・いちかわ環境フェア 2010 出展 於：県立現代産業科学館 6/26
- ・千葉市環境フェスティバル 出展 於：京葉銀行文化プラザ 6/29
- 7 月 ・企画展「生物多様性って何だ!？」開催 於：県環境研究センター 7/23-10/29
- 8 月 ・巨樹・古木フォーラム in きみつ 出展 於：君津市生涯学習交流センター 8/18-22
- ・第 5 回企業と生物多様性セミナー「生物多様性への取組に向けて」開催 8/26
- ・ニュースレター No.18 発行 8/31
- 9 月 ・エコメッセ 2010 in ちば 出展 於：幕張メッセ 国際会議場 9/5
- ・ニュースレター No.19 発行 9/30
- 10 月 ・千葉県生物多様性センター年報 2 発行 10/15
- ・流山ビオキッズ 10 出展 於：流山市生涯学習センター 10/16
- ・COP10 生物多様性交流フェア出展・取組発表 於：名古屋市熱田神宮公園 10/18-29
- ・いきものみつけシンポジウム 取組発表 於：名古屋市科学館 10/23
- ・自然系調査研究機関連絡会議 (NORNAC) 取組発表 於：ウィルあいち 10/21-22
- 11 月 ・大学との連携協定に基づく第 4 回連絡会議 11/11
- ・第 41 回ガスフェスタ 出展 於：習志野市役所前 11/13
- ・富里リサイクルフェア 出展 於：富里中央公園イベント広場 11/21
- ・第 3 回学校ビオトープフォーラム開催 11/28
- ・ニュースレター No.20 発行 11/30
- 12 月 ・第 6 回企業と生物多様性セミナー「C O P 1 0 で何が議論されたか」開催 12/2
- ・生命（いのち）のにぎわい調査団現地研修会 於：坂田ヶ池総合公園 12/11

2011

- (平成 23 年) 1 月 ・ニュースレター No.21 発行 1/31
- 2 月 ・第 7 回企業と生物多様性セミナー「市場メカニズムを活用した生物多様性の保全」開催 2/10
- 3 月 ・生命（いのち）のにぎわい調査フォーラム、調査団員写真コンテスト 開催 3/5
- ・ヒメコマツ観察会 3/6
- ・研究報告第 3 号 発行 3/25
- ・学校ビオトープ実践事例集「みんなでつくる学校ビオトープ」Vol.3 発行 3/28
- ・研究報告第 4 号 発行 3/31
- ・ニュースレター No.22 発行 3/31
- ・千葉県生物多様性ハンドブック 2 「外来生物がやってきた」発行 3/31
- ・千葉県レッドデータブック - 動物編 - 2011 年改訂版 発行 3/31

II

平成 22 年度主要事業のまとめ

絶滅危惧種の保護にむけて

絶滅危惧種の保全モデル事業・ミヤコタナゴ保護増殖事業

1 絶滅危惧種の保全モデル事業

生物多様性センターでは、県内の絶滅危惧種のうち、特に生息・生育状況が悪化しており、人による積極的な保護がなければ、絶滅する可能性が極めて高いシャープゲンゴロウモドキ（図1）とヒメコマツ（ゴヨウマツ）について、平成20年度から地元自治体、関係NPO、学識経験者、水族館で構成される保全協議会を設置して、回復計画の検討を行い、平成21年度末に「千葉県シャープゲンゴロウモドキ回復計画」および「千葉県ヒメコマツ回復計画」を策定しました。平成22年度は、シャープゲンゴロウモドキ保全協議会を3回、ヒメコマツ保全協議会を1回開催して具体的な取り組みについて協議を行い、各回復計画に基づいた保護活動が開始されました。

○平成22年度の取り組み

【シャープゲンゴロウモドキ】

シャープゲンゴロウモドキは、ゲンゴロウに近縁な水生昆虫で、千葉県では最重要保護生物に、環境省のレッドリストでは絶滅危惧Ⅰ類に指定されており、全国的に絶滅の可能性の極めて高い生きものです。特に、関東型と呼ばれる亜種は、かつて関東地方に広く分布していましたが、現在では千葉県のごく一部の地域に生息が確認されるのみとなっています。

平成22年度は、まずは絶滅のリスクを避けるために、現在の生息地において、生息状況のモニタリングを実施しながら、生息環境の維持管理（草刈や水域の維持）、近年侵入が認められたアメリカザリガニの駆除等を実施しました。平成22年度の確認個体数（成虫）は、100個体でし



図1. シャープゲンゴロウモドキ

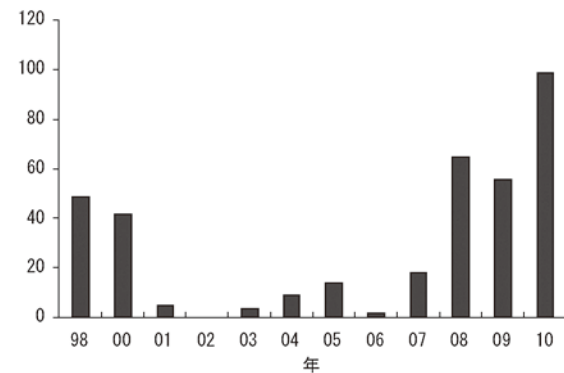


図2. シャープゲンゴロウモドキ確認個体数の年次変化

た（図2）。また、アメリカザリガニについては、113個体を駆除しました。シャープゲンゴロウモドキは、現在の生息数が極めて少なく、個体群の維持が不安定な状況であるため、平成21年度に引き続き鴨川シーワールドにおいて、系統保存を続けています。

そのほか、関係NPOによる生息地のパトロール、地元小学校の観察会、各種会合等における回復計画の周知などの活動を行いました。新規の生息地の探索も行いましたが、新たな発見はありませんでした。

なお、平成23年4月1日から、「種の保存法」によって「国内希少野生動植物種」に指定され、捕獲や譲渡等が禁止されています。

【ヒメコマツ（ゴヨウマツ）】

ヒメコマツは、東北南部以南の太平洋側、四国、九州に分布します。最終氷期には広範に分布していたものが、温暖化に伴い局所的に残ったと考えられており、房総丘陵の植物相や植生の形成を考える上で重要な生物といえます。しかし、近年その数を急速に減らし、全生育数が100個体未満にまで減少しています。

平成22年度は、生育状況・繁殖状況のモニタリングを行うと共に、東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林・県農林総合研究センター森林研究所等によって、系統保存個体の維持管理、さし木試験等を実施しました。また、



図3 ヒメコマツ苗木の植栽試験

平成21年度に実施したマツ材線虫病予防のための薬剤樹幹注入の効果判定試験を実施しました。生育状況は、新たに3個体の枯死が確認され、芳しくはありませんが、観察を続けていた稚樹が成木の基準としている樹高130cmにまで成長しました。また、球果数の調査等から、平成22年度の繁殖状況は良好であると判断されました。

過去の生育地への再導入方法を検討するため、ちば千年の森をつくる会の協力を得て、苗木の試験植栽と生育状況のモニタリングを実施しました。植栽個体はほとんどが枯死しましたが、得られたデータを元に、新たな条件での再試験を実施しています。

8月に君津市で開催された巨樹古木フォーラムでは、ヒメコマツ保全協議会のメンバーで房総のヒメコマツ研究グループ代表の藤平量郎氏による基調講演が行われた他、各種会合等でヒメコマツの保護活動についてのPRを行いました。

※両回復計画についての詳細は、生物多様性センターのウェブサイトをご覧ください。

<http://www.bdcchiba.jp/endangered/>

2 ミヤコタナゴ保護増殖事業

ミヤコタナゴは、湧水を水源とする細流やため池などに生息するコイ科タナゴ亜科の淡水魚です。かつては、関東地方に広く分布していましたが、都市化にともなう生息環境の悪化により、現在は千葉県と栃木県の一部にのみ分布しています。

本種は、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）」により、国内希少野生動植物種に指定されているほか、文化財保護法による天然記念物に指定されています。生物多様性センターでは、本種の保護増殖を図ることを目的に、生息状況の把握や生息水路等の環境維持ならびに個体群の系統保存等を行っています。

○平成22年度の取り組み

環境省受託事業「希少野生動植物種保護増殖事業（千葉県ミヤコタナゴ）」として、県内で生息地のある茂原市、いすみ市、夷隅郡御宿町、勝浦市においてミヤコタナゴや産卵母貝であるイシガイ科二枚貝の生息状況調査を行いました。

また、生息水路内の環境を維持するため、水路の補強や不適な植物、外来種等の除去を行うとともに、関係市町担当者の参加による水路環境整備に係る研修会を行いました。



図4 ミヤコタナゴ

ミヤコタナゴの個体群維持については、人工下での適切な飼育繁殖を行うことができる施設を持つ、千葉県水産総合研究センター内水面水産研究所、いすみ環境と文化のさと、（社）観音崎自然博物館において、飼育下個体数の増加を図り、生息地ごとの系統保存を行いました。

絶滅の危険性を評価

千葉県レッドデータブックの改訂

1 レッドデータブックとは何か

レッドデータブック Red Data Book (RDB) とは、絶滅のおそれのある野生動植物に関する情報をまとめた本です。種（あるいは、亜種、変種）ごとに絶滅の危険性をランクとして評価し、形態や性質などの特徴、生息・生育状況、分布、保護対策などが記述されています。一方、リストだけのものをレッドリスト Red List (RL) と呼びます。

2 これまでの経緯

千葉県では平成 7 年度からレッドデータブックの編纂が始まり、平成 10 年度に「千葉県の保護上重要な野生生物―千葉県レッドデータブック―植物編」を発行しました。そして平成 11 年度に「動物編」、平成 12 年度「普及版」を発行し、平成 15 年度にレッドリスト「植物編」、平成 17 年度にレッドリスト「動物編」を改訂しました。

平成 19 年度からは「生物多様性ちば県戦略」

千葉県レッドデータブック改訂委員会

植物専門部会

維管束植物分科会

非維管束植物分科会

動物専門部会

哺乳類分科会

鳥類分科会

魚類分科会

両生爬虫類分科会

昆虫分科会

貝類分科会

甲殻類分科会

土壌動物分科会

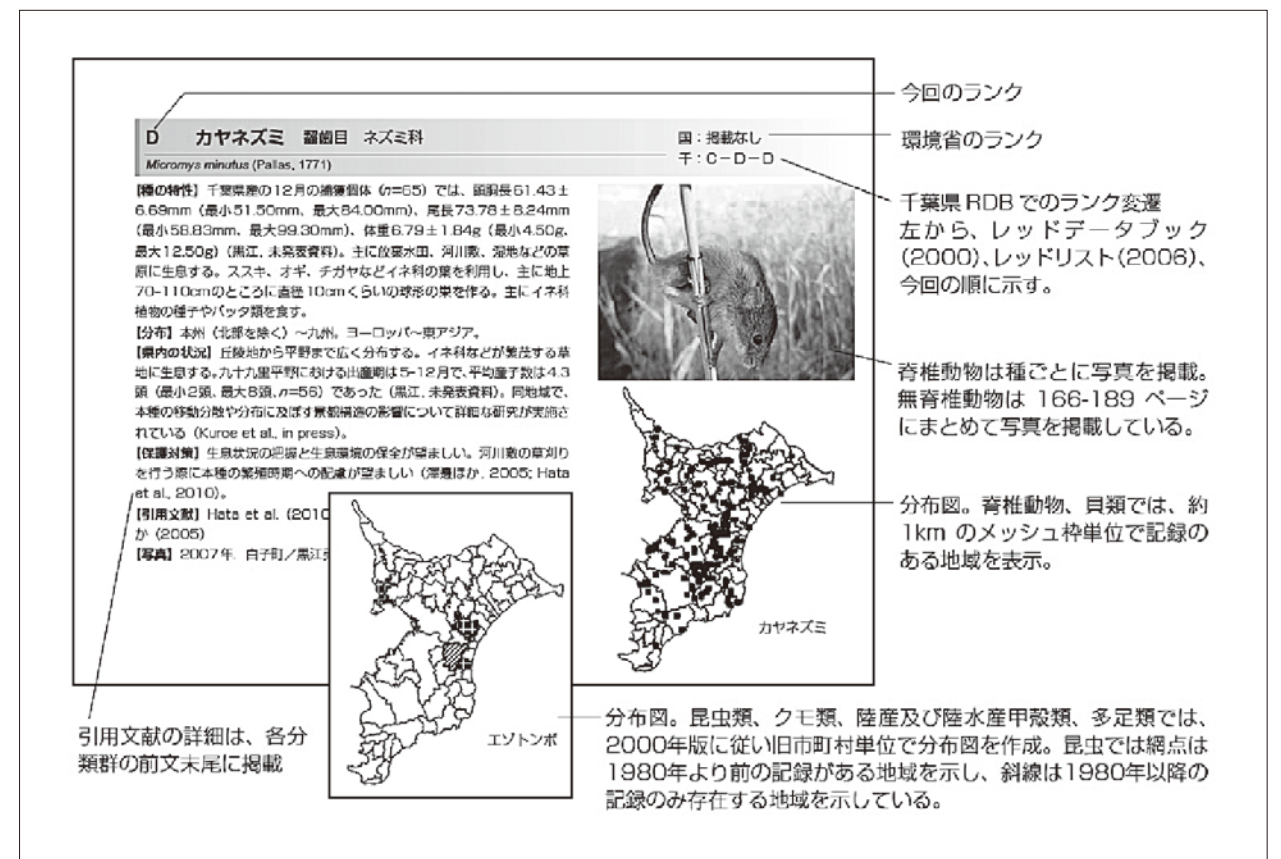
レッドデータブック改訂委員会

を推進する取り組みのひとつとしてレッドデータブックとレッドリストの定期的な見直しを行っています。動物 8 名植物 6 名の専門家からなる千葉県レッドデータブック改訂委員会が組織され、改訂作業が始まりました。そして平成 20 年度には「千葉県の保護上重要な野生生物―千葉県レッドデータブック―植物・菌類編 2009 年改訂版」が発行され、平成 21 年度には動物編の改訂に着手しました。

3 平成 22 年度の取り組み

(1) 千葉県レッドデータブック 動物編

平成 22 年度は「千葉県の保護上重要な野生生物―千葉県レッドデータブック―動物編 2011 年改訂版」を発行しました。前回のレッドリストから 5 年を経た改訂です。掲載種数は計 902 種で、前回発行のレッドリストの 873 種に比べ、29 種増加しました。増加の原因は、生息環境の悪化、調査の進展による新たな絶滅危惧種の発見などです。また、最重要保護生物 (A) が 23 種増加しましたが、その原因の一つにアライグマによる捕食がありました。トウキョウサンショウウオやニホ



動物編 2011 年改訂版 本文の見方

ンイシガメがこれにあたります。

今回のレッドデータブックでは、本文中で用いられる分布図に、生物多様性センターで運用している千葉県生物多様性地理情報システムのデータが用いられました。このデータは改訂委員会委員にも提供され、選定や執筆に役立てられました。

掲載された写真や分布情報の作成には、多くの県民の方々の協力がありました。例えば写真は 88 名もの方々から提供いただきました。

(2) 追録の発行

レッドデータブック刊行後、次のレッドデータブック刊行までは約 10 年の間隔が、この間を埋めるレッドリストの刊行でも約 5 年の間隔が生じます。この間の新たな発見や状況の変化を時間を置かずに伝えるため、周知すべき大きな発見があっ

た年には「千葉県の保護上重要な野生生物―千葉県レッドデータブック―追録」として情報を発信することとなりました。平成 22 年度は、動物編発行の年にあたるため、植物・菌類についてのみ検討が行われ、最重要保護生物 (A) としてスズカケソウが、重要保護生物 (B) としてアカフユノハナワラビが、それぞれ選定されました。

4 入手方法について

「千葉県の保護上重要な野生生物―千葉県レッドデータブック―植物・菌類編 2009 年改訂版」、「同 動物編 2011 年改訂版」「同 追録第一号」は、生物多様性センターのウェブサイトから全ページをダウンロードできます。また、植物・菌類編および動物編については、千葉県文書館で冊子体を有償頒布しています。



千葉県レッドデータブック動物編
2011 年改訂版の表紙

外来生物の脅威から生態系を守る

外来種緊急特別対策事業

県内で急増し、在来の生態系や農作物へ被害をもたらす外来生物に対応するため、「外来種緊急特別対策事業」として、生物多様性センターでは緊急性の高いカミツキガメやウチダザリガニの個別対策を実施しました。また、外来植物のナルトサワギクについて生育状況の把握や防除方法について検討しました。

今後も引き続き、環境省や地元市町村と連携の上、より充実・強化した対策に取り組む必要があります。

1 外来種緊急特別対策事業

(1) カミツキガメ

本種は「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」（外来生物法）により特定外来生物に指定されています。県では平成 19 年度に「千葉県におけるカミツキガメ防除実施計画」を策定し、国の確認を受けて、計画的な防除を実施しています。本県では、特に印旛沼周辺で自然繁殖が確認されており、繁殖地として高密度に生息していると考えられる佐倉市の高崎川、南部川及び鹿島川などの流入河川部においてワナを用いた捕獲作業を実施しました。また、西印旛沼および中央排水路などの沼内部においては、環境省受託事業「地域生物多様性保全活動支援事業（カミツキガメ等防除）」として捕獲作業を実施しました。捕獲は、誘因餌を用いたワナを用い、流入河川部では 6 月 15 日から 9 月 3 日に、沼内部では 10 月 19 日から 31 日に実施しました。

これらの捕獲作業の結果、高崎川で 61 個体、南部川で 45 個体、鹿島川で 84 個体、西印旛沼で 2 個体の合計 192 個体を捕獲しました。捕獲個体の大きさは背甲長で雄が 198.9 ± 52.6 mm (n=103)、雌が 183.8 ± 51.2 mm (n=86) でした。

また、県では一般市民からの通報により、地元市町村や警察が緊急的に収容した個体の殺処分等を実施しています。これらの発見情報は、県内の

生息状況を把握するための重要な情報です。

平成 22 年度に緊急収容された個体は、印旛沼周辺域で 123 個体、その他地域で 5 個体、合計 128 個体でした。このため、平成 22 年度に千葉県で捕獲されたカミツキガメの総捕獲数は 320 個体であり、そのうち 98.0 %が印旛沼周辺水域からの収容個体でした。

そのほか、外来生物問題について、広く一般に普及啓発するための資料として、児童向けの下敷きやカミツキガメについてのパンフレットを作成しました。

(2) ウチダザリガニ

当センターは、平成 21 年 9 月に利根川水系長門川（印旛郡栄町）において、関東で初めてとなる特定外来生物ウチダザリガニの生息を確認したことから、生息状況調査を実施するとともに関係者からの情報収集に努めています。

平成 22 年度の調査は、環境省受託事業「地域生物多様性保全活動支援事業（カミツキガメ等防除）」として、長門川、将監川および利根川本流（若草大橋から常総大橋）において、平成 22 年 10 月 21 日から 12 月 30 日に、ワナを用いた捕獲作業を実施しました。

作業期間中に延べ 7,879 ワナ日の作業努力を投じましたが、ウチダザリガニの捕獲はありませんでした。また、平成 22 年夏期の水温は 30℃以上



外来生物問題の啓発のために配布した児童向け下敷き

となる期間が断続的に 3 週間程度継続しました。このように、本年度、ウチダザリガニは 1 個体も捕獲されていませんが、まだ低密度で生息している可能性があります。昨夏の高水温により、相当数が淘汰された可能性が高いものの、生残した個体群から増殖した場合は、「高水温耐性群」として選抜されていく可能性があり、今後の定着が懸念されます。

このため、千葉県では今後も本種の生息動向をモニタリングするとともに、県内全域からの排除を目的として「千葉県ウチダザリガニ防除実施計画」を策定しました。今後も地元漁業者等関係者とともに、状況把握や防除に努めていきます。

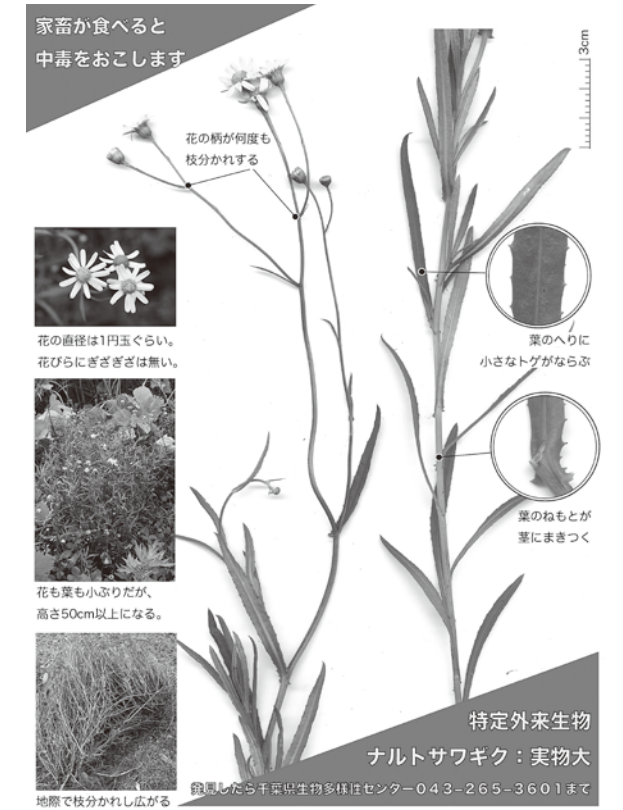
2 ナルトサワギクの防除方法の検討

本種もカミツキガメ同様、外来生物法により特定外来生物に指定されています。ナルトサワギクは、牛が食べると中毒をおこすことが知られています。また、海岸に侵出した場合、急速に広がるので防除が困難になります。本県は全国有数の酪農県であり、自然豊かな海岸線も有するため、完全に防除する必要があると考えられます。県内では、館山市と南房総市の内陸部、数カ所で繁茂しており、生物多様性センターでは館山市、南房総市、そして現地の自然愛護団体である安房生物愛好会と協力して防除のための調査研究と広報を行っています。

ナルトサワギクの防除には確立された方法が無



多数の県民が参加した除草作業



ナルトサワギクへの注意を喚起するチラシを配布

いので、当面は手取り除草により分布拡大を食い止め、その間に現地に適した防除方法の検討を行う必要があります。平成 22 年度は、安房生物愛好会が中心となり、館山市、南房総市で計 3 回、のべ約 330 名が参加して大規模な手取り除草が行われ（写真）、9 トンのナルトサワギクを除草しました。

こうした活動の結果、ナルトサワギクの勢いは弱まり、種子の飛散量も減少し、拡大は抑えられているように見えます。しかし、除草を終えた場所からも、新たにナルトサワギクの芽生えが多量に発芽しているのが観察されています。今後、早期に手取り除草よりも効率的な除去方法を見つけ出し、実施することが必要だと考えられます。

広報活動としては、見分け方や処分方法についてのチラシ配布の他、南房総市で開催された市民環境学習会に講師として出席し、ナルトサワギクを含む外来生物の問題について普及に努めました。

哺乳動物と人との共存をめざして

獣害防止のための林縁管理モデル開発事業

イノシシなどの農作物加害獣に抵抗性のある農村環境を整備するための千葉県独自の「林縁管理」のあり方を開発するための研究事業を行いました。また、県南地域において害獣の生息分布を推定するために農家などにアンケート調査を実施しました。

1 林縁管理モデル開発

モデル地域（勝浦市法花地区）における林縁管理（草本刈取もしくは樹木伐採）に伴うイノシシやニホンジカ、ニホンザルの行動追跡調査（カメラトラップ法）と被害状況調査（ラインセンサス調査、聞き取り調査）を行いました。

カメラトラップ調査によると、樹木の伐採では、長期効果（一年を越えて効果が持続すること）がみられましたが、草地の除草をおこなった試験区では、長期効果がみられず、草本の生長によってイノシシなどが隠れやすい状況が回復してしまいました（表）。



カメラトラップ法調査風景



カメラトラップ法で撮影されたニホンジカ

表 林縁管理による各獣種の生息密度低下
○：密度低下があり、×：密度低下なし

		イノシシ	シカ	キョン
樹木伐採試験区	短期効果	×	○	×
	長期効果	○	○	×
草本刈取試験区 A	短期効果	○	○	×
	長期効果	×	×	×
草本刈取試験区 B	短期効果	○	○	×
	長期効果	×	×	×

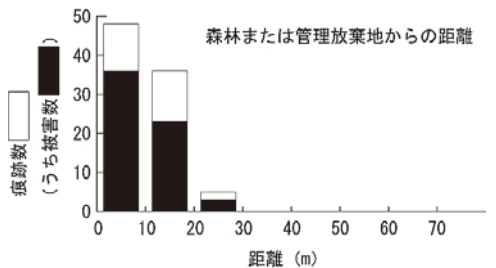


図 林縁からの距離別被害発生地点と痕跡発見地

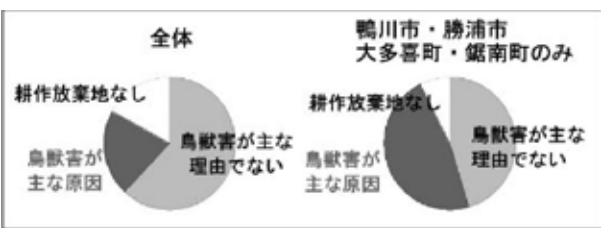
ラインセンサス調査から、イノシシやシカの痕跡および被害は、森林または管理放棄地（耕作放棄地および放棄竹林）から 30 m 以内の農地で発生していることが明らかになりました（図）。

聞き取り調査によると、除草をおこなった管理放棄地では翌年のイノシシの被害を減少させることができませんでしたが、樹木を伐採した管理放棄地では、サルの被害が低下し、利用されなくなることがわかりました。

2 県南地域の害獣の分布調査

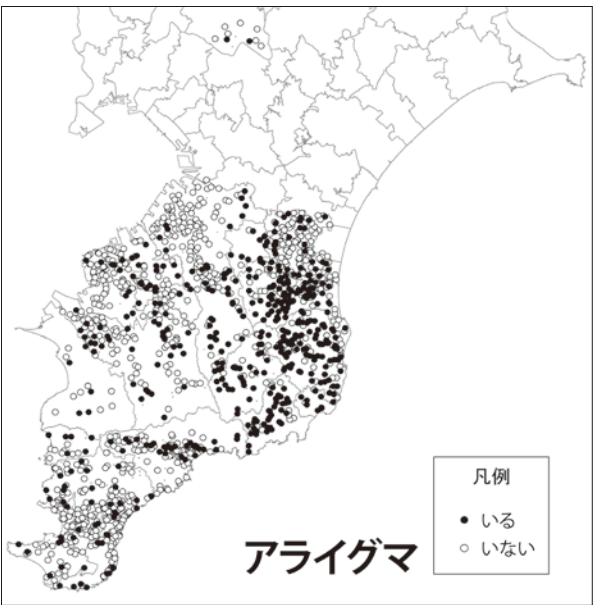
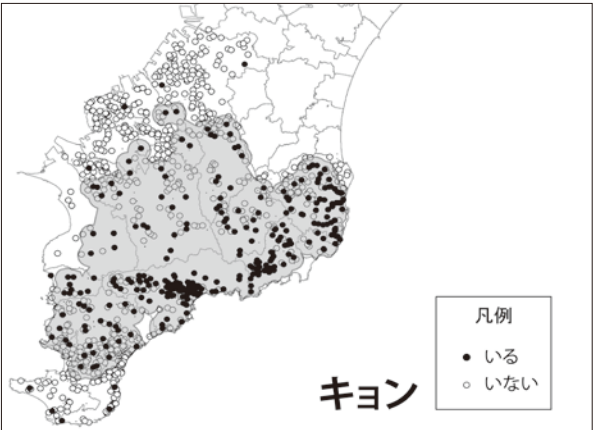
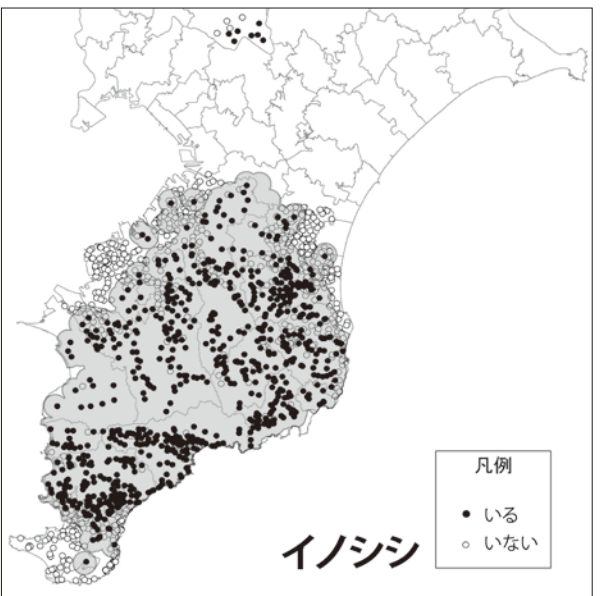
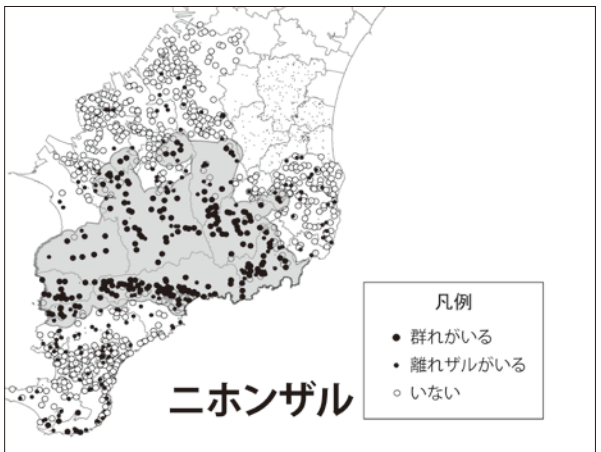
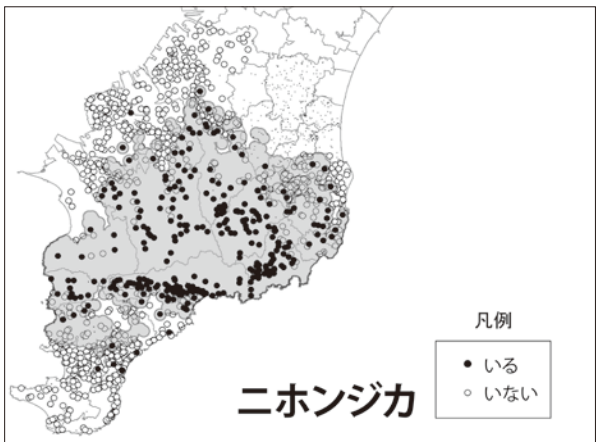
ニホンジカ、ニホンザル、イノシシ、キョン、アライグマの最新の県内分布と農作物被害状況を把握するため、県南地域において、市町村の協力のもと、農家組合などに対しアンケート調査を行いました。

配布した 2,769 件のうち、1,607 件の回答が得られ、回答率は 58.0 % でした。耕作放棄に対する鳥獣害の影響を質問したところ、全体の約 1/4 が耕作放棄の主な原因として、獣害をあげました。特に被害の激しい市町村に限ってみると、その割合は約半数以上に上りました。アンケートにより生息情報が得られた地点と、他の調査結果および



「耕作放棄の原因」の回答割合

森林の連続性を考慮したニホンジカの分布域は約 1,301 km² と推定され、9 年間で約 3 倍に拡大しました。同様に、キョンの分布域は 1,377 km² で、8 年間で約 3 倍に拡大しており、イノシシは約 2,075 km² で、8 年間で約 4 倍に拡大、ニホンザルは約 942 km² で、15 年間で約 1.7 倍に拡大しました。アライグマの生息情報は県南部全域から収集され、2006 ～ 2007 年に高密度であった夷隅・長生地域で、特に生息情報の密度が高く、依然として高密度で生息していることがわかりました。



ニホンジカ、ニホンザル、イノシシ、キョン、アライグマの分布調査結果

里山里海の再興と生物多様性豊かな持続可能な社会へのシナリオ

ちばの里山里海サブグローバル生態系評価事業

1 背景と目的

世界各地で自然破壊や環境汚染が進み生物多様性が急速に減少するなか、国連では生態系の変化とそれが人々に与える影響を評価し、人類の取るべき行動の選択肢を科学的に示すため、2001年から4年間、ミレニアム生態系評価（Millennium Ecosystem Assessment: MA）が実施されました。これは、生態系が人々にもたらす恵みを生態系サービスとしてその現状と傾向を調査解析したものです。その結果、環境負荷や資源の枯渇のために、地球上の生態系は将来世代を支える能力があるとはみなせない状態であり、政策や慣行に大きな改革が必要と結論づけられました。

これを受け、日本では国連大学高等研究所を事務局とし、海外の研究者も含め約230名が参加して里山や里海を対象とした生態系の状態診断「日本の里山・里海評価（Japan Satoyama Satoumi Assessment：JSSA）」が実施されました。このJSSAにおいて千葉県は、その評価のモデルサイトの一つとして参加し、生物多様性センターを中心に環境生活部、農林水産部、県土整備部の職員から成る「千葉県の里山里海サブグローバル評価（ちば里山里海SGA）」プロジェクトチームが結成されました。千葉県チームは、国レベルの報告および関東・中部クラスター報告にも参画しつつ、県としても独自の報告書を作成しました。

2 庁内検討

●中間報告書説明（4月28日）

●ちば里山里海SGA評価説明・意見交換会「持続可能な社会づくりに向けた里山里海の課題整理（5月19日）」「里沼：印旛沼・手賀沼における生態系サービスの利活用（6月29日）」「森林・林業（8月6日午前）」「里海（8月6日午後）」「農業（9月15日）」

3 公開シンポジウム

「里海：人と自然がつむぎだす豊饒の海」

8月21日10:00～14:15 於：県立中央博物館

主催：千葉県生物多様性センター・千葉県立中央博物

館・千葉県環境研究センター

・挨拶 自然保護課生物多様性戦略推進室 森雅邦

・趣旨説明「里海とその生態系」県生物多様性センター・県立中央博物館 中村俊彦

・基調講演「里海管理と生物多様性」九州大学応用力学研究所 柳哲雄

・企画展ツアー「海藻 35億年の旅人、それは生命をつたえるものがたり」県立中央博物館分館海の博物館 宮田昌彦

・事例紹介1「千葉県の水産について」県水産課 宮嶋義行

・事例紹介2「東京湾のノリ養殖」県水産総合研究センター東京湾漁業研究所 林俊裕

・事例紹介3「外房の漁業：アワビの資源管理型漁業」県水産総合研究センター資源研究室 小宮朋之

・事例紹介4「都市の発展と里海の変遷」県環境研究センター水質環境室 小倉久子

・事例紹介5「里山里海の将来シナリオ」県生物多様性センター 北澤哲弥

・コメント1「流域から里海を考える」東京大学大気海洋研究所 野村英明

・コメント2「浸食の進む九十九里浜の現状とこれから」河川環境課 吉田正彦

・コメント3「人間活動が里海の生物多様性に与える影響」県生物多様性センター 柳研介

・総合討論

4 事業報告・公開

●国際シンポジウム「日本における里山・里海の生態系サービス評価 生物多様性条約第10回締約国会議に向けた地域からの貢献」関東・中部クラスター報告（5月23日 国連大学）

●ちば生物多様性県民会議実行委員会で中間報告書の概要報告（5月25日 千葉県教育会館）

●第4回全国クラスター間会議及び第4回国レベル・ワーキング会議（6月1-3日 横浜国立大学）

●生物多様性条約第10回締約国会議生物多様性交流

フェアにてパネル展示・パンフレット配布（10月18-29日 名古屋市国際会議場）

●千葉県環境研究センター公開講座「生物多様性とちばの里山里海：国連地球生きもの会議を終えて」（10月30日 千葉県立美術館講堂）

●土木学会・日本アセスメント学会環境システムシンポジウム「里山里海の生態系サービスを評価する」（12月13日 土木学会会議室）

5 報告書・解説パンフレット

●ちばの里山里海サブグローバル評価中間報告（千葉県生物多様性センター研究報告2）.2010. 千葉県生物多様性センター（編）.179pp.

●生物多様性ゆたかな持続可能な社会に向けて：ちばの里山里海サブグローバル評価 .2010. 千葉県生物多様性センター（編）.日本語版と英語版.各8pp.

●ちばの里山里海サブグローバル評価最終報告書（千葉県生物多様性センター研究報告4）.2011. 千葉県生物多様性センター（編）.249pp.

●里山・里海の生態系と人間の福利：関東中部の経験と教訓.2010. 国連大学高等研究所（編）.130pp.

●里山・里海の生態系と人間の福利：日本の社会生態学的生産ランドスケープ（概要版）.国連大学高等研究所（編）.2010.日本語版と英語版.各36pp.

6 生態系評価結果

里山里海は、集落及び田畑や森林、草地、川沼、海岸・海域等多様な環境のモザイクから成る人・自然・文化が調和・共存する複合領域（景相）であり、立地条件により9タイプが類別されました。

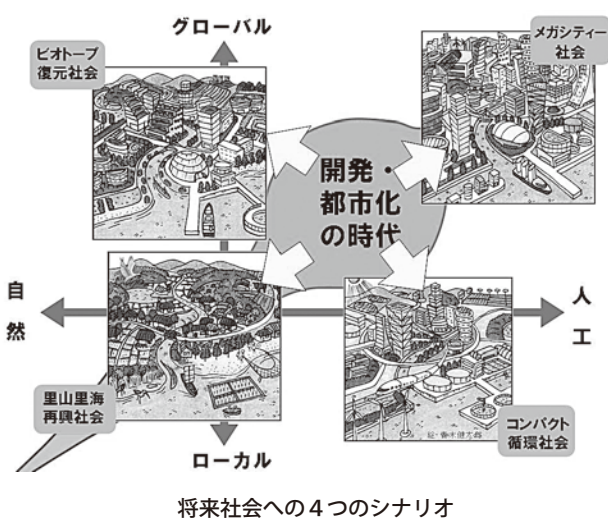
里山里海の単位（景相単位）としては、かつての「村」が想定され、明治時代の村の解析から、自然のポテンシャルを最大限に引き出す人々の暮らしが見て取れました。村は150～300人で30～60戸の規模のコミュニティが形成され、そこでは人々が互いに助け合い、分かち合う文化とともに生物多様性が育まれ、エネルギーを自立させ資源を循環させる持続可能なシステム

が存在しました。

里山里海の生態系は、開発・都市化によって変貌し「都市化進行地域」では自然環境の破壊・汚染が著しく、在来生物が減少・絶滅する一方で外来生物が増加していました。また、都市から離れた「過疎高齢化地域」の里山里海では、田畑、森林の放棄地が増加し、野生鳥獣の農作物被害も急増していました。その結果、里山里海の生態系サービスは大きく損なわれ、都市を中心に域外の生態系サービスを取り込む外部依存の状態が示されました。

人間社会の現状を踏まえた将来へのシナリオについては「ローカル-グローバル」と「自然-人工」の2軸の上で4つ、すなわち①メガシティ社会、②ビオトープ復元社会、③コンパクト循環社会、④里山里海再興社会が想定され、さらに各現場に根ざす地域レベルでの里山里海の将来シナリオとして「地産地消（ローカル）-交流貿易（グローバル）」「自然文化（自然）-近代技術（人工）」の2軸を踏まえた4つ（Ⅰテクノウン里山里海、Ⅱガーデニングむら里山里海、Ⅲふるさとタウン里山里海、Ⅳ故郷のいなか里山里海）が描かれました。

持続可能な社会を目指すには、地球環境を視野に地域の生物多様性や生態系を守り、地域の文化を尊重する「地縁」に基づく生物・生命・いのちの価値観へのパラダイムシフトが必要です。この里山里海の再興を「里山里海イニシアティブ」として提案しました。



生物多様性情報の収集・管理・提供

生物多様性地理情報システムの維持管理

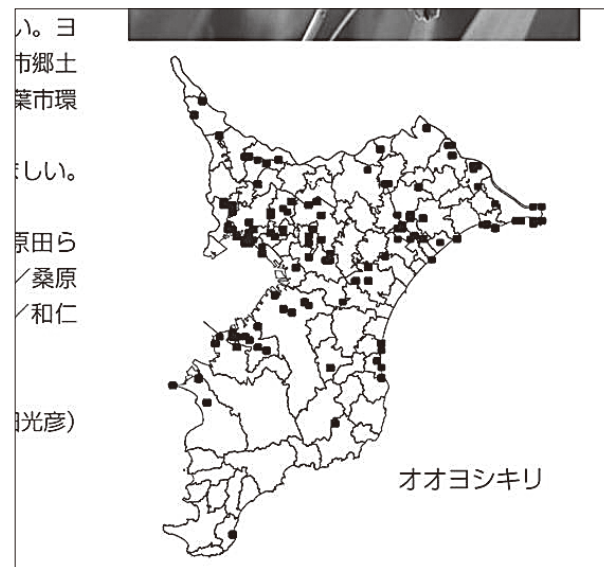
1 事業の概要

生物多様性の保全・再生及び持続的な利用の推進にあたっては、生物多様性に関する基礎情報としての生物分布情報の整備は欠かせません。しかし、このような基礎情報は、論文や報告書などの紙媒体で記録されているものが多く、情報の検索には大変な手間がかかります。また、県内の各事業によって作成されたデータベースもいくつか存在しますが、そのデータは各部署で個別に管理されており、情報入手には様々な手続きが必要です。このような状況を解決するため、平成 18 年度から、県内の生物多様性に関する情報を収集・電子化し、それらを地理情報と共にデータベースとして一元管理するという「千葉県生物多様性地理情報システム」の構築を進めています。

2 システムの目的

本システムは、県内の生物多様性に関する情報を統合的に管理することを目的としています。

本システムを活用することにより、県内各地の生物多様性の状況と、現在の土地利用や今後の開発計画、保護指定などの状況とを関連させ、今後どのような施策を行っていくかを判断するための



レッドデータ種の分布図

情報を提供することができるようになります。

3 システム構築の概要

千葉県生物多様性地理情報システムは、平成 18 年度に基本設計を終え、生物分布情報を基本的には 3 次メッシュ (1:25,000 地形図を 100 等分した範囲、約 1 km²) をベースとして管理することに決定しました。

平成 19 年度には、基本設計に基づいてシステムの構築を行いました。また、県立中央博物館の標本データ、自然保護課発行の報告書、環境影響評価書のデータを整備（電子化）し、地理情報 (GIS) データベース化しました。

平成 20、21 年度には、文献情報や入手した植物と両生爬虫類等のデータ整備をさらに進め、21 年度には生物多様性センターウェブページにて主な特定外来生物の分布状況を公開しました。

平成 22 年度には、これまで蓄積してきたデータを用いて、同年度発行の「千葉県の保護上重要な野生生物―千葉県レッドデータブック―動物編 2011 年改訂版」の分布図を作製しました。さらに、メッシュ番号を入力すると、そのメッシュで生息が報告されている生物種のリストが出力され、また逆に種名を入力すると、その種の生息が報告されているメッシュ番号が出力されるシステムを作成しました。



生物多様性センター内に設置された GIS サーバ

4 システムの構成

生物多様性地理情報システムの構成は、以下のようなスタンドアロン・システムとしています。

(1) GIS サーバ (1 台)

- ・ GIS ソフトウェア : ARC Desktop 10.1
- ・ ハードウェア : Dell OptiPlex 755
- ・ CPU : Intel Core2Quad 2.4 GHz
- ・ OS : Windows XP SP3

(2) データ入力用クライアント (2 台)

- ・ ハードウェア : Apple iMac
- ・ OS : Mac OS X 10.5
- ・ DB ソフトウェア : FileMaker Pro

5 データベースの内容

データベースは、県立中央博物館の生物標本データ、自然保護課発行の報告書、各種論文、環境影響評価書等より抽出された約 120 万件の生物分布情報等で構成されています。

各情報の構成は以下の通りです。

(1) 中央博物館所蔵標本データ

- ・ 動物 (5 分類群)、植物・菌類 (8 分類群)
- 約 300,000 件

(2) 文献データ

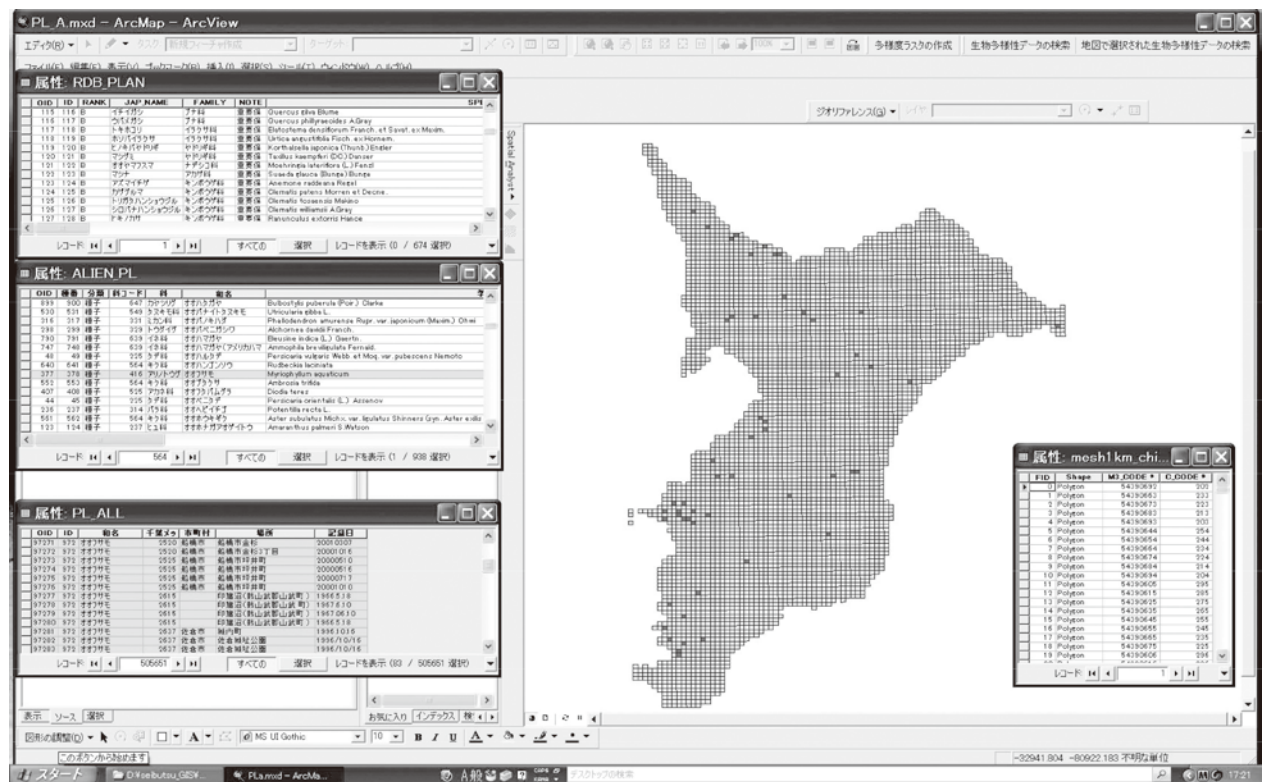
- ・ 中央博物館所蔵の報告書、雑誌等及び環境影響評価書からの生物分布情報
- 約 150,000 件

(3) 地理情報データ等

- ・ 1/2,500 及び 1/25,000 空間データ基盤
- ・ 数値地図 1/25,000 地図画像
- ・ 町丁目ポリゴンデータ
- ・ 衛星写真
- ・ 千葉県植生図

(4) その他

- ・ 大場達之氏収集県内植物のデータ
- ・ 長谷川雅美氏収集両生爬虫類のデータ他
- 約 750,000 件



生物多様性地理情報システム画面

県民参加型の生物モニタリング調査

生命（いのち）のにぎわい調査団事業

1 事業の概要

生物多様性センターでは、「生物多様性ちば県戦略」の普及啓発と推進にあたり、多様な主体により生物多様性の状況をモニタリングする取組が重要なことから、広く県民に呼びかけて、生態系を指標する生物や外来生物などの身近な生き物の情報提供を受ける事業を行っています。

2 目的

「生命（いのち）のにぎわい調査団」は、団員から生物の発見情報を報告してもらい、生息状況や季節報告の飛来・初鳴き、産卵、植物の開花等を把握することにより、里山等の身近な生物の生息分布やその経年変化、外来生物の分布拡大、地球温暖化による生物への影響など生物多様性の変化を把握するための調査モニター制度として、平成20年7月に発足しました。

3 調査団員の状況

県内全域の多くの人に調査団員になってもらえるように、県民だよりや県内の環境フェア等でも広く調査団員の募集を行い、団員数は現在 604 名（平成 23 年 3 月末現在）です。

団員の年齢別構成の特徴は、50 歳代以上が全体の約 6 割を占め、時間にゆとりのできた世代が自然環境保全や生物の観察に関心が高いことがわかりました。また、18 歳未満は約 1 割、その親世代にあたる 30 歳代と 40 歳代が約 2 割おり、生命のにぎわい調査を次の世代へつなぐための重要な役割を担っています。

4 調査の対象生物

里山、海辺など千葉県の多様な環境で見られる生物のうち、種類の区別がつきやすく、身近に生息・生育している動植物 57 種を選定し、調査対象生物としています。生息・生育を確認した生物の情報提供は、報告用紙を郵送・FAX で送付するか、

当調査団のホームページの報告フォームから送信する方法があります。

調査対象生物以外の発見生物の報告も受けており、その中には、里山の生態系を象徴するサシバや希少種のミヤコドリ等もあります。

5 平成 22 年度の取り組み

(1) 生物報告の件数

生物報告の件数は、平成 22 年度は約 5,000 件で、月別件数で最多の 7 月は 568 件、最少の 2 月は 244 件でした。調査団発足から平成 22 年度末までの 2 年 8 か月間の累計件数は 8,800 件となりました。

(2) 生物報告の分析と情報発信

生物報告の分析結果は、「生き物分布図（発見マップ）」、開花、紅葉、初鳴き、産卵などの「生き物季節マップ」などとして取りまとめており、その



生命（いのち）のにぎわい通信

結果を当センター研究報告第 3 号に掲載しました。情報発信のために、「生命のにぎわい調査団」のウェブサイト (<http://www.bdcchiba.jp/monitor/>) を開設して、毎月の生物報告や生きもの分布図、調査対象生物の生態や見分け方、生物多様性に関わる企画等の情報提供を、随時、行っています。

また、「生命（いのち）のにぎわい通信」を 12 号から 16 号までの 5 号を発行し、生物報告の分析結果と生物多様性の保全に向けた取り組みの紹介、県内に生育・生息している希少種や外来種などの情報を提供しました。

この通信は、調査団員に配布するほか、生物多様性に関連する各シンポジウムの参加者にも配布しました。

(3) 調査団の研修会等

本県の自然や調査対象生物の見分け方・見つけ方を学んで生物報告の情報の正確性を向上させるため、調査団員の観察技術の向上を目的として、以下に示すとおり、これまでの調査結果の検討などを行う「生命のにぎわい調査フォーラム」並びに年 2 回の現地研修会を開催しました。

①生命のにぎわい調査フォーラム

平成 23 年 3 月 5 日（日）県立中央博物館講堂
参加者 55 名

・講演等

「千葉の外来生物—私たちにできること—」

「調査団報告のまとめと今後の活用」

「観察事例の紹介」

・写真コンテスト

応募 37 作品からフォーラム参加者の投票審査により上位 2 点を表彰した。

②現地研修会

平成 22 年 5 月 30 日（土）県立中央博物館分館・海の博物館（勝浦市）

「初夏の海辺の生き物を知ろう、磯の生きものを観察しよう」参加者 51 名

平成 22 年 12 月 11 日（土）坂田ヶ池総合公園

及び県立房総のむら・風土記の丘資料館（成田市）
「初冬の生きものを知ろう、渡り鳥と植物の冬越し」
参加者 59 名



生命（いのち）のにぎわい調査フォーラム



勝浦市で開催された現地研修会



成田市で開催された現地研修会

COP10関連行事による普及啓発活動

生物多様性条約第10回締約国会議に向けた生物多様性推進事業

1 事業の概要

平成22年10月18日から29日まで「生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）」が、名古屋市で開催され、世界から179の締約国と関連国際機関など1万3千人以上が参加しました。

会期中は、地方公共団体、NGO、民間企業などによる過去最大となる約350のサイドイベントが開催されたほか、隣接する会場では生物多様性をテーマとした国際的な発表・展示会である「生物多様性交流フェア」が開催され、11万8千人を超える人で賑わいました。

千葉県では、県の生物多様性保全に関する取組を広く国内外に発信するため「生物多様性交流フェア」をはじめ各種関連行事で発表を行いました。

2 千葉県が参加した関連行事

(1) 生物多様性交流フェア

会場：熱田神宮公園内フェスティバルゾーン

○展示ブースの設置（10月18日～10月29日）

パネル展示とパンフレット（日本語、英語版）等で、県の取組状況を解説しました。また、COP10に向けて千葉県内で実施した、日常生活をとoshita「生物多様性保全のための行動宣言（おはじき投票）」の展示には、多くの方から高い関心が寄せられました。



生物多様性交流フェア 千葉県ブース

○特設ステージでの発表（10月20日）

テーマ「千葉県の生物多様性とその保全・利用に向けた取組」

全国に先駆けて平成20年3月に策定した生物多様性ちば県戦略や、県の生物多様性の現況、保全の取組について発表しました。

(2) いきものみつけシンポジウム

開催日：平成22年10月23日

会場：名古屋市科学館

環境省の主催により、全国の市民参加型の生物調査に取り組んでいる自治体・団体が、これまでの成果や生物調査の活用方法等について話し合うシンポジウムが開催されました。県では、平成20年から実施している県民参加型モニタリング調査「生命（いのち）のにぎわい調査団」の活動を報告しました。

(3) 生物多様性国際自治体会議

開催日：平成22年10月24日～26日

会場：名古屋東急ホテル

国内外の自治体が、地域が抱える生物多様性に関する議題、問題点や先進的な取組事例について情報交換しました。県では、今回の会議で採択された「地方自治体と生物多様性に関する愛知・名古屋宣言」の検討に参加しました。



千葉県ブース内の展示

(4) ビジネスと生態系に関する国際対話会合

開催日：平成22年10月26日

会場：名古屋国際会議場

日本経団連自然保護協議会などの主催による「ビジネスと生態系に関する国際対話会合」が開催され、千葉県は「民間参画パートナーシップ」の発足時の公会員として参加しました。

(5) 自然系調査研究機関連絡会議

開催日：平成22年10月21、22日

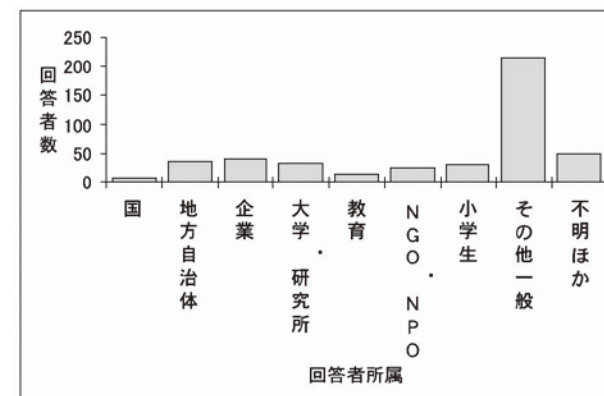
会場：ウィルあいち（名古屋市）

平成22年3月に策定した「千葉県の絶滅危惧種シャープゲンゴロウモドキおよびヒメコマツの回復計画」について発表しました。

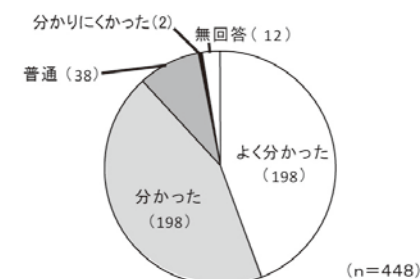
3 千葉県展示ブース来場者アンケート結果

来場者にパネルを見ていただいた後に、アンケートを実施しました。職員がパネルについて解説したこともあり、集計結果では、多くの方から県の取組に対し高い評価がありました。

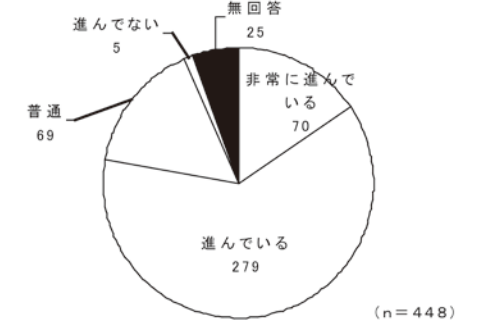
・訪問者 2838名 ・アンケート回答 448名



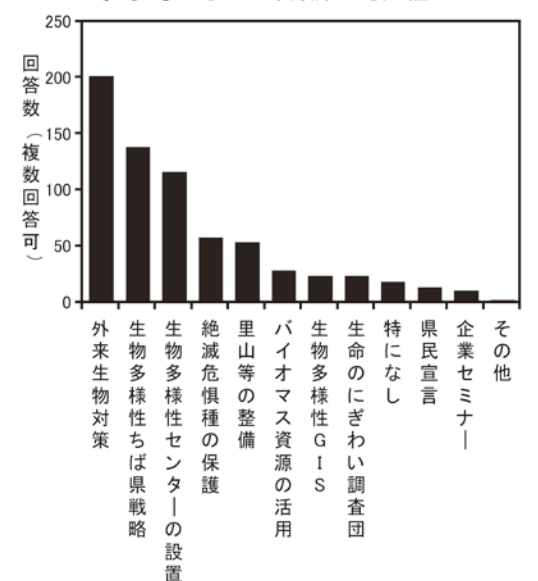
Q1. 展示・解説の分かりやすさはいかがでしたか？



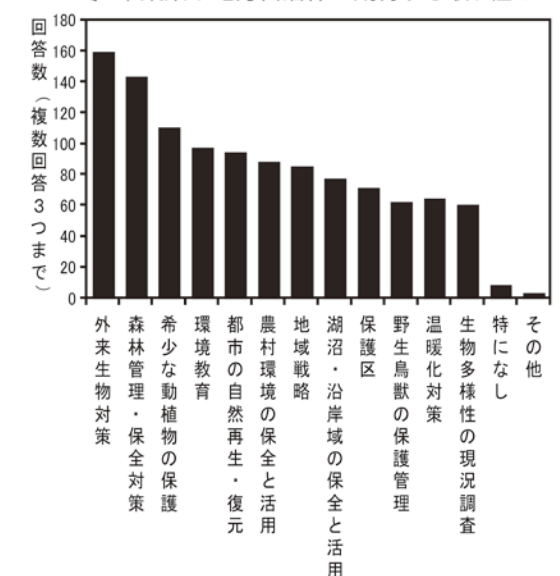
Q2. 千葉県の生物多様性保全の取組の評価



Q3. 参考になった千葉県の取り組み



Q4. 千葉県や地方自治体に期待する取り組み



ウェブサイトによる情報発信

生物多様性保全に係る普及啓発事業

概要

生物多様性センターウェブサイトは、生物多様性センターの取組を多くの方に伝えることを目的に、平成 20 年 5 月に公開しました。

トップページからの見出しを 17 項目とし、記事の追加・更新・修正などを月に 2～3 回のペースで行っています。アクセス数は、月 2 万件以上あり、特に絶滅危惧種の保護や外来種対策のページが多く閲覧されています。



ウェブページ「普及活動・展示用パネル」

トップページの各項目の主な内容

項 目	内 容
センターの概要	生物多様性センターの発足経緯、5つの機能、問い合わせ先等について記述
生物多様性ちば県戦略	自然保護課の生物多様性ちば県戦略のページへのリンク
絶滅危惧種の保護	絶滅危惧種の回復計画、レッドデータブックについての紹介
外来種対策	外来種問題への取組みについて紹介
ビオトープの推進	ビオトープ推進マニュアル、学校ビオトープの取組みについて紹介
生物多様性モデル事業	生物多様性モデル事業についての説明・紹介のページ
多様な主体との連携・協働	県と連携協定を結んでいる県内 6 大学や N P O、企業などとの連携・協働について紹介
生物多様性 G I S	生物多様性地理情報システムの内容、主な特定外来生物分布図を紹介
生物多様性モニタリング	県で実施している生物多様性モニタリング事業についての紹介
にぎわい調査団	「生命（いのち）のにぎわい調査団」に関するページ
千葉県の生物多様性	千葉県の生物多様性に関するトピックス的な話題を分かりやすく紹介
刊行物	「生物多様性ちばニュースレター」「学校ビオトープ事例集」「研究報告」「生物多様性ハンドブック」等の生物多様性センターで発行する刊行物の紹介
生物多様性用語集	生物多様性に関する用語を解説
生物多様性写真館	県内の生物多様性ホットスポットや生き物図鑑、外来種などを写真で紹介
リンク	県内外の生物多様性に関する機関のウェブページへのリンク集
ニュース・イベント情報	生物多様性に関する県内の主な動きや情報を紹介
募集・公告	生物多様性センター事業の募集・公告を掲載

U R L：http://www.bdcchiba.jp/

生物多様性ちばニュースレターの発行

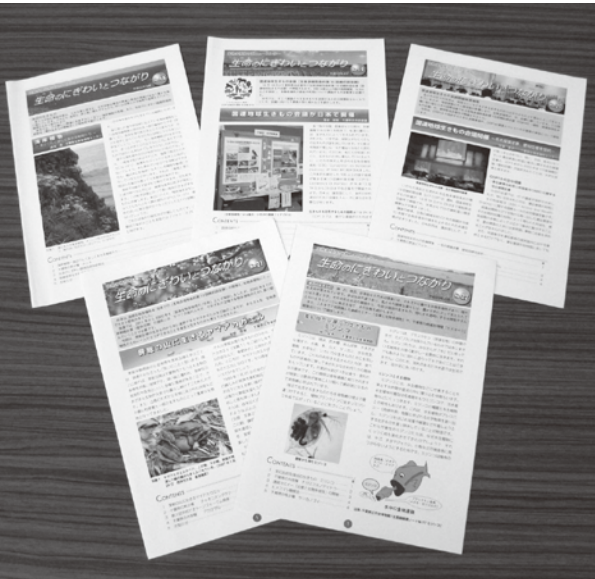
生物多様性保全に係る普及啓発事業

1 事業の概要

生物多様性センターでは、生物多様性についての理解の促進や、生物多様性ちば県戦略の普及啓発、生物多様性センターの取組に関する情報発信などを行うため、ニュースレター「生命（いのち）のにぎわいとつながり」を 1 年間に 5 回程度発行しています。

紙面は、A3 版両面印刷二つ折りの 4 ページ構成で、巻頭の生物多様性に関する特集や、生物多様性の保全に向けた取組の紹介、千葉県に生育・生息している希少種や外来種の紹介、生物多様性センターからのお知らせなどを掲載しています。

印刷部数は、3,500 部で、千葉県内の図書館や市町村に配布したほか、生物多様性に関連する各種イベントにおいても配布しました。



生物多様性ちばニュースレター
「生命（いのち）のにぎわいとつながり」

2 平成 22 年度発行実績

発行日等	主 な 内 容
No.18 (8 月 31 日)	・特集「海岸植物―海辺でたくましく生きる植物たち―」 ・生命のにぎわい調査団 現地研修会を開催「初夏の海辺の生きものを知ろう！磯の生きものを観察しよう！」
No.19 (9 月 30 日)	・特集「国連地球生きものの会議が日本で開催」 ・特定外来生物 ナルトサワギク
No.20 (11 月 30 日)	・特集「国連地球生きものの会議開催～名古屋議定書、愛知目標を採択～」
No.21 (1 月 31 日)	・特集「房総の山に生きるヤマアカガエル」 ・第 3 回学校ビオトープフォーラム開催
No.22 (3 月 31 日)	・特集「変幻自在な湖沼の生きもの ミジンコ」 ・連続セミナー「企業と生物多様性」の開催～生物多様性保全の企業の取組～

イベントによる情報発信

生物多様性に係る普及啓発事業

1 事業の概要

2010 年は国連の定めた生物多様性年であり、愛知県名古屋市で生物多様性条約第 10 回締約国会議が開催されました。生物多様性センターでは、「生物多様性」をより社会に浸透させることを目的に、県内の市町村や企業と協働して、生物多様性に関する巡回展示や巡回講座などの普及啓発活動を行いました。

2 巡回展示

「第 13 回船橋環境フェア」(6 月 5 日)や「いしかわ環境フェア」(6 月 26 日)、「流山市バイオキッズ 10」(10 月 16 日)など、市町村等が開催している環境イベントやショッピングセンター、企業のショールームなど、19ヶ所で、生物多様性に関するパネル展示を行いました(展示一覧は 35 頁参照)。また、展示ブースでは、県民の皆様へ「生物多様性の保全のために自分ができること」を宣言していただき、その宣言結果を COP10 生物多様性交流フェア(10 月 18 日から 29 日)において発表しました。宣言の方法は、おはじき投票と折り紙による宣言の 2 通りです。

(1) おはじき投票

生物多様性の保全のために、自分ができる宣言を 8 つ用意しました。自分が既に実行していることや、これから実行するという項目をつけた箱に、おはじきを一つ入れてもらうことで意思表示をしてもらう投票方法です。一人でいくつもできるという方は、できる項目すべてに投票してもらいました。「レジ袋を減らすためにエコバッグの使用」への投票数が一番多く、すべての宣言をあわせると、8 千近い投票がありました。多くの県民の皆様が、生物多様性のために小さな一歩を踏み出し始めています。



ショッピングセンターでの展示の様子

8 つのおはじき宣言 ※カッコ内は投票数

- レジ袋を減らし、エコバッグを使います (1,323)
- 千葉の食材を選び、自然への負担を減らします (1,242)
- 旬の食材を選びます (1,102)
- 野外に出たら、マナーを守って自然を楽しみます (975)
- 省エネルギー・省資源を心がけます (889)
- ペットは最期まで面倒をみます (851)
- 自然の中に出て生きものに親しみます (838)
- 様々な認証を参考に、生きものに優しい商品を買います (724)

COP10 で展示したおはじき投票の結果



(2) 折り紙宣言

折り紙で生きものを折り、そこに、自分が生きもののためにできる行動を書いてもらいました。「自然を大切にします」、「三番瀬の魚を食べます」、「MSC 認証マークが付いた魚を選び、いつまでも豊かな海であることを願う」、「ゴミを減らすぞ」などの宣言が集まりました。なお、この取り組みは、環境省地球いきもの委員会認定プロジェクトで IUCN 日本委員会主催の、「COP10 おりがみプロジェクト」にパートナー団体として参加したものです。

3 巡回講座

市町村と連携して、外来生物や希少生物など、生物多様性に関する講演を行いました(34 頁参照)。



宣言が記載された折り紙→



第 13 回船橋市環境フェアでの展示



↑東京ガスショールームでの展示

←エコメッセ 2010in ちばでの展示

学校ビオトープの推進

生物多様性体験学習推進事業

1 事業の概要

学校ビオトープは、児童・生徒が身近な自然とふれあいながら地域の生物について学ぶことができる環境学習の場となるだけでなく、地域の多様な生物の生育地・生息地になるなど、地域の自然環境にとっても大変重要なものです。

そこで、自然保護課では平成 20 年度から、学校と地域が連携した学校ビオトープの整備を支援するため、生物多様性体験学習推進事業として、ビオトープの整備費等に対し補助を行いました。対象となる経費は、(1) ビオトープの整備、改修に係る経費、(2) ビオトープを活用するために必要な経費、(3) 講師、アドバイザーの謝金及び旅費などです。

平成 22 年度は補助対象経費の 2 / 3 を補助することとし、上限は 1 団体あたり 70 万円としました。

募集の結果、高等学校 3 校、小学校 8 校の計 11 校から応募があり、選考委員会での審査を経て、その全てを採択しました。採択された学校では整備したビオトープを生活科や理科などの教材として利用するだけでなく、地域の方と一緒に観察会



ビオトープの整備を行う小学生



実施校で行われた夏のビオトープ観察会

を開催するなど、身近な自然としてのビオトープを活用して、地域づくりにも活かされました。

この事業の特徴は、学校ビオトープの整備にあたって、単に学校だけではなく、地域とともに取り組むこととしている点です。そのため学校の先生や生徒、地域住民の方とともにビオトープ整備のための協議会を立ち上げていただき、その協議会に対して補助する形をとっています。また、事業計画の策定や実施にあたっては、生物多様性センターの職員が学校に出向き、地域の生物種に配慮したビオトープの整備についてアドバイスを行いました。

平成 22 年度の実施校は、表のとおりです。

平成 22 年度 事業実施校

学校名	
小学校	野田市立清水台小学校
	柏市立中原小学校
	鎌ヶ谷市立初富小学校
	八千代市立村上東小学校
	千葉市立真砂第三小学校 (平成 23 年度に真砂西小学校に統合)
	銚子市立椎柴小学校
	九十九里町立片貝小学校
	学校法人三育学院光風台三育小学校
高等学校	県立沼南高等学校
	県立市原八幡高等学校
	敬愛大学八日市場高等学校

2 学校ビオトープフォーラムの開催

平成 22 年度に本事業を実施した学校を中心に、学校ビオトープの整備・活用を実際に行っている児童・生徒や教職員などにより、その方法や課題について意見交換を行ったり、県立中央博物館の生態園を管理している専門家から、水辺や植生の管理、観察の方法などについて学ぶ「学校ビオトープフォーラム」を開催しました。

日時：平成 22 年 11 月 28 日（日）9:45 ～ 16:00
会場：千葉県立中央博物館 講堂 生態園
主催：千葉県環境生活部自然保護課
共催：千葉県教育委員会
参加者：165 名
プログラム

- 午前の部 ・森の調査隊
- ・水辺と植生の管理講習
- 午後の部 ・基調講演
- ポスターセッション
- 実践事例のステージ発表

児童・生徒が参加した「森の調査隊」では、各班ごとに生態園内を散策し、そこで興味をもった対象についてさらに詳しく観察し、その内容を「はっけんレポート」にまとめました。園内にある植物の葉の形や葉脈に着目した生徒や、舟田池の野鳥をスケッチする児童など、それぞれの視点でレポートを作成しました。

主に教職員が参加した「水辺と植生の管理講習」では、参加者は、県立中央博物館の生態園内の森や草地、湿地などのさまざまな景観を見ながら、その管理のためのポイントを聞くとともに、地域の自然を取り入れたビオトープづくりの方法について熱心に質問をしていました。

基調講演「外来種ってなーに？」では、外来種が侵入することによる生態系への影響や、身近に生息・生育する外来生物の種類等について、生物

多様性センター職員が説明をしました。生きものを飼う際には、「どれくらい大きくなるか」「どれだけエサが必要か」そして「どれくらいの寿命か」を必ず確認して、最後まで世話をしてほしい、という話を、参加した児童・生徒のみなさんは真剣な表情で聞き入っていました。各校によるパネル等を使った取組紹介や実践事例のステージ発表を行いました。

平成 22 度に新たにビオトープを整備し始めた学校は、事前準備、計画、調査、そして整備作業で大変だったことなどを中心に発表しました。ビオトープの改修に取り組んでいる学校は、地域との連携や近隣の学校を招いて行った観察会などについて発表しました。講師からは、記録をとることの重要性や、近隣の自然を見つめ直し、地域の生物を導入してほしいとのコメントがありました。



森の調査隊の様子



ポスターセッションの様子

流域を一体的に捉えた生物多様性の保全・再生

夷隅川流域における生物多様性保全再生事業

1 事業の概要

夷隅川は自然豊かな夷隅地域を流れる県内最大の流域面積をもつ二級河川です。その流域は、ミヤコタナゴやトウキョウサンショウウオを始めとする数多くの希少種の生息域となっており、河口部の両岸にはラグーン干潟が広がっています。また、近隣には国の天然記念物である太東海浜植物群落もあります。この地域には農業や林業を生業にしてきた世帯も多く、これまで自然と人間が共存してきましたが、近年では高齢化が進み、耕作放棄地の増加や荒れた森が増え、生物への影響も懸念されています。

そこで、平成 20 年度から、地元環境保全に取り組んでいる団体と県・いすみ市で「夷隅川流域生物多様性保全協議会」を設立し、山、川、里、海のつながりとして、流域を一体的に捉えて生物多様性の保全・再生を行うため、「夷隅川流域における生物多様性保全再生事業」として様々な取り組みを行いました。

2 伝統的谷津田のミニ環境モザイクの再生

平成 22 年度は、いすみ市荻原の行元寺近辺の耕作放棄された谷津田の再生に取り組みました。生い茂った下草の刈取りや水路の再生復元、斜面林の手入れなどの様々な作業を 10 月頃から半年間かけて行いました。作業にはいすみ市の方以外も参加するなど、谷津田再生を通じて、人の輪も広がりました。

3 房総丘陵地の集落の森の再生

よく手入れされた森ではクマガイソウなどの貴重な山野草が見られますが、近年では、人の手が入らなくなったことなどにより森が荒れ、竹が繁



整備された作業道

茂するといった問題も起きています。

そこで森の再生のため、いすみ市山田六区の市有地において、平成 21 年度に引き続き枝打ちや間伐、竹木の伐採を行いました。また平成 22 年度は、新たな作業道を谷筋に整備するとともに、遊歩道としても活用するため、各作業道の入り口に案内看板を設置しました。

4 海岸清掃

夷隅川河口に広がる砂浜は、アカウミガメの産卵地としても有名です。しかし近年は、夷隅川から海に流出した竹木が浜に大量に漂着し、景観上の問題だけでなく、アカウミガメの産卵への悪影響も懸念されています。

そこで、流竹木が散乱している夷隅川河口付近で海岸清掃を、7月3日（土）と11月20日（土）の2回実施しました。作業には中流域の大多喜町立西中学校、大多喜中学校の生徒たちも参加してくれました。2回の海岸清掃でのべ約430人の方々が集まり、4トンを超える流竹木を回収することができました。

5 自然観察会

「地元の人でも自分たちが住んでいる夷隅地域の良さをよく知らない人が多い」ということから、自然の豊かさをまず地元の人たちに理解してもらうため、地域の自然観察会を開催しました。

7 月には夷隅川河口付近の砂浜や植物群落を巡る観察会を行い、9 月には勝浦市の大沢地区で、房総独特の土地利用である「川廻し」を見学する、夷隅川の源流を訪ねる観察会を行いました。また、8 月には中高生を対象にして大原漁港からのクルーズ船を利用した海上からの観察会を行いました。この際、大変幸運なことにスナメリの大群に遭遇することができました。

6 広報活動

10 月に名古屋市で開催された COP10 では、交流フェア会場において、協議会参加団体が主に谷津田再生の取組について紙芝居形式で分かりやすく発表しました。

また、2月19日（土）には、夷隅農業環境改善センターにおいてタウンミーティングを開催し、協議会が取り組んできた事業について地域に報告するとともに、来場者と自然や生物についての意見交換を行いました。午前中は協議会で取り組んでいる里山整備や谷津田整備などの現場を各コースに分かれて見学し、午後は全体会として参加者全員で意見交換を行いました。



夷隅川河口付近で行われた海岸清掃



駅に設置された生き物マップの様子

その他、いすみ市立西畑小学校、大多喜町立老川小学校、県立大多喜高等学校の児童生徒が、それぞれ学校近辺の生き物マップを作成しました。作成した生き物マップは、観光客や地元の方に地域の自然の豊かさをアピールするために、いすみ鉄道の主要な駅に設置されました。

多様な主体との連携・協働

生物多様性モデル事業

1 事業の目的

生物多様性保全・再生に向けては、県や市町村だけでなく地域の方々の活動がとても重要です。なぜなら、それぞれの地域内での身近な自然環境や里山の保全・再生のためには、地域の实情に応じてきめ細かく対応することが必要だからです。

こうした観点から生物多様性ちば県戦略では、NPOなどの各種地域団体をはじめとした多様な主体との連携・協働の推進を掲げており、平成20年度に創設した生物多様性モデル事業はそのための事業の一つです。

2 事業の概要

生物多様性モデル事業は、生物多様性の保全・再生などについて、先導的な取組を行うNPO等の地域団体及び生物多様性地域戦略を策定する市町村に対して補助金を交付する制度です。

(1) NPO等を対象とした補助金

補助対象団体の要件は、NPO法人又は社会貢献活動を行っている非営利の任意団体のうち、千葉県内で活動していて、定款や規約を定めており団体運営や事業実施に支障のない団体であることです。

補助対象経費は消耗品費、備品購入費（ただし汎用性のある備品を除く）、図書費、原材料費等で、限度額は1団体あたり40万円となっています。また、このモデル事業の特徴として、限度額内の



夏の観察会



棚板の設置作業

対象経費については自己負担の必要がなく、いわゆる補助率が10/10であることが挙げられます。これは、資金力が乏しい小規模の団体にとっても、活用しやすい制度とするためです。

(2) 市町村を対象とした補助金

市町村を対象とした補助金では、生物多様性の基本計画等の策定に資する事業のうち、住民等による会議開催に要する経費、自然環境調査や絶滅危惧種の保護・増殖活動等に要する経費、地域住民への広報に要する経費に対して補助します。補助率は1/2、上限額は200万円です。

3 平成22年度の採択団体

NPO等の各種団体を対象とした補助金では25の団体から申請があり、行政職員や博物館職員からなる選考委員会での審査を経て、16団体を採択しました（p.35）。

そして各団体の補助事業終了後には、1年間の活動報告や今後の課題等についてまとめてもらいました。これらは、他の団体の活動の参考になるよう、生物多様性センターのホームページに掲載しています。

モデル事業の取組みを参考として、今後県内に生物多様性に関する様々な活動が広がっていくことを期待しています。

大学との連携

大学との連携による生物多様性保全研究事業

1 連携協定の締結

平成20年12月24日に、県と江戸川大学、千葉大学大学院園芸学研究科、東京大学大学院新領域創成科学研究科、東京海洋大学、東京情報大学、東邦大学の6大学との間で「生物多様性に関する千葉県と大学との連携に関する協定書」を締結しました。

これらの大学は、いずれも県内にキャンパスや研究施設があり、これまでも県戦略の策定をはじめ、千葉県の生物多様性に関する研究を行うなど、千葉県と深いかかわりがありました。今回の連携協定の締結は、より幅広い側面から、これまで以上に連携を深めていこうとするものです。

連携項目としては、

- ① 情報の共有
- ② モニタリングの実施
- ③ 共同研究
- ④ 人的交流・人材育成

を掲げています。これに基づき、以下の取組を実施しました。

2 委託研究

平成21年度に引き続き、各大学に生物多様性保全のための研究を委託しました。

また、大学との共同研究として、サシバ・プロジェクトを継続し、基盤となる情報整備を業者委託しました。

3 研究成果発表会の開催

6大学が平成22年度に行った生物多様性保全の研究成果等を発表する「千葉県と連携大学との研究成果発表会―千葉県の生物多様性 その現状と課題―」を平成23年3月に江戸川大学にて開催の予定でしたが、東日本大震災の影響で中止になりました。

4 人的交流・人材育成

東邦大学2名、千葉大学1名のインターンシップ実習生を受け入れました。

5 連絡会議

平成22年11月11日に、県と各大学の関係者による連絡会議を開催し、連携内容について意見交換が行われました。



千葉大学による遺伝子解析サンプルの採集

平成22年度の各大学への委託研究テーマ

大学名	研究テーマ
江戸川大学	都市化が生物多様性に及ぼす影響に関する研究
千葉大学	里山における動植物個体群の生態的及び遺伝的研究
東京大学	照葉樹林帯・里山の生物多様性と持続可能な社会に関する研究
東京海洋大学	黒潮流域における魚類相のモニタリングに関する研究
東京情報大学	衛星データによる千葉県の自然環境の解析に関する研究
東邦大学	委託なし

企業との連携

生物多様性に関する企業との連携推進事業

企業活動は、直接的、間接的に生物多様性の恵みを利用して行われています。また、企業活動が生物多様性に著しい影響を及ぼすこともあります。

このため、平成 18 年に開催された生物多様性条約第 8 回締約国会議では、民間参画に関する決議が採択されました。

国内でも、平成 21 年 3 月に（社）日本経済団体連合会が「日本経団連生物多様性宣言」を発表し、同年 8 月、環境省が「生物多様性民間参画ガイドライン」を策定しました。

また、平成 22 年 10 月に愛知県名古屋市で開催された生物多様性条約第 10 回締約国会議にあわせて、経団連自然保護協議会、日本商工会議所及び経済同友会が中心となって、生物多様性民間参画パートナーシップを立ち上げるなど、様々な取

組が行われています。

本県でも、先進事例の報告等により、企業と生物多様性とのかかわりについて理解を深め、取組の第一歩を踏み出してもらうために、（社）千葉県環境保全協議会と（社）千葉県経済協議会との共催で、「企業と生物多様性セミナー」を開催することとし、平成 22 年度は 5 回のセミナー（通算 7 回）を開催しました。



	日時・場所	セ ミ ナ ー 内 容
第 3 回	22 年 4 月 19 日 千葉県教育会館	テーマ：生物多様性が招く企業リスク 講 演：「パームオイル利用企業と生物多様性」サラヤ(株) 代島裕世 「外来生物について」県生物多様性センター 熊谷宏尚 事例報告：出光興産(株)、東京ガス(株)、(株)ヤマトマネキン
第 4 回	22 年 6 月 18 日 千葉県教育会館	テーマ：生物多様性への影響緩和のために 講 演：「生物多様性オフセット・バンキング」東京都市大学 田中 章 「里山と生物多様性」県生物多様性センター 北澤哲弥 事例報告：東電環境エンジニアリング(株)
第 5 回	22 年 8 月 26 日 東京電力ビオトープそが 及び 県環境研究センター	テーマ：生物多様性への取組に向けて 視 察：東京電力ビオトープそが 県環境研究センター企画展「生物多様性ってなんだ!？」 講 演：「県環境研究センターの紹介」県環境研究センター 高梨祐司 「生物多様性に配慮した緑化について」県生物多様性センター 熊谷宏尚 「ビオトープについて」県生物多様性センター 中村俊彦 事例報告：キッコーマン(株)、(株)クボタ、ワタミ(株)
第 6 回	22 年 12 月 2 日 千葉県教育会館	テーマ：C O P 10 で何が議論されたか 講 演：「企業にとっての生物多様性」日経 B P 社 藤田 香 「C O P 10 で決まったこと」県生物多様性センター 斎木健一 事例報告：山万(株)、シャープ(株)
第 7 回	23 年 2 月 10 日 千葉県教育会館	テーマ：市場メカニズムを活用した生物多様性の保全 講 演：「金融機関の生物多様性への取組」住友信託銀行 後藤文昭 「千葉県の自然について」県生物多様性センター 由良 浩 事例報告：宝酒造(株)

Ⅲ

平成 22 年度他機関への支援活動・研究業績等のまとめ

他機関への支援活動・研究業績等

2010.8.18-8.22 巨樹・古木フォーラム in きみつ「ギャラリー展示」（巨樹・古木フォーラム in きみつ実行委員会） 於：君津市生涯学習交流センター．
2010.8月下旬 -10 月中旬 東京ガスショールームでの展示（東京ガス㈱・東京ガスライフバル千葉（株）） 於：東京ガスショールーム．
2010.8月下旬 -10 月中旬 角栄ガスショールームでの展示（角栄ガス㈱） 於：角栄ガス㈱志津事業所．
2010.9.5 エコメッセ 2010 in ちば（エコメッセ 2010in ちば実行委員会） 於：幕張メッセ 国際会議場．
2010.10.16 流山市ピオキップ１０（流山市／（財）自治総合センター） 於：流山市生涯学習センター．
2010.11.13 第 41 回ガスフェスタ（習志野市企業局） 於：習志野市役所前．
2010.11.21 富里リサイクルフェア（富里市・富里市環境美化推進協議会） 於：富里中央公園イベント広場．
2011.2.26-27 平成 22 年度マリンサイエンスギャラリー「水辺の生きものあれこれ」（千葉県立中央博物館分館海の博物館） 於：県立中央博物館分館海の博物館．

・**マスコミを通じての情報発信（30 件）**

2010.4.4 日本経済新聞 日本経済新聞日曜版サイエンス面「外来生物問題（カミツキガメ）」（尾崎真澄）
2010.4.7 東葛毎日新聞社 ふれあい毎日「里山海からの通信 41：里山の味「ツクシ」と外国産マグロ」（中村俊彦）
2010.4.14 読売新聞 読売新聞夕刊「外来生物問題（ウチダザリガニ）」（尾崎真澄）
2010.4.16 テレビ朝日 スーパー J チャンネル「ウチダザリガニについて」（熊谷宏尚・尾崎真澄）
2010.5.5 東葛毎日新聞社 ふれあい毎日「里山海からの通信 42：やさしさを育む教育「ビオトープ」」（中村俊彦）
2010.5.30 読売新聞社 読売新聞「ちば水辺の生命 145：トキ帰帰する日も」（中村俊彦）
2010.5.14 成田ケーブルテレビ ニュース「ウチダザリガニについて」（熊谷宏尚・尾崎真澄）
2010.5.24 新潟日報社 新潟日報「生物多様性ちば県戦略について」（熊谷宏尚）
2010.6.2 東葛毎日新聞社 ふれあい毎日「里山海からの通信 43：「都市の縮退」と里山海のルネッサン」（中村俊彦）
2010.6.16 千葉日報社 千葉日報朝刊「カミツキガメ防除事業開始」（熊谷宏尚・尾崎真澄）
2010.6.16 千葉テレビ ニュース「カミツキガメ防除事業開始」（熊谷宏尚・尾崎真澄）
2010.6.17 フジテレビ とくダネ！「カミツキガメについて」（熊谷宏尚）
2010.6.17 JA 千葉中央会 日本農業新聞「カミツキガメ防除事業開始」（熊谷宏尚・尾崎真澄）
2010.7.7 東葛毎日新聞社 ふれあい毎日「里山海からの通信 44:田字草（デンジソウ）」（中村俊彦）
2010.7.20 T V 東京 火曜エンターテインメント「外来生物問題（カミツキガメ）」（尾崎真澄）
2010.7.18 日本テレビ 真相報道バンキシャ！「カミツキガメの捕獲について」（熊谷宏尚）
2010.8.4 東葛毎日新聞社 ふれあい毎日「里山海からの通信 45：アメリカザリガニ」（中村俊彦）
2010.8.6 読売新聞社 読売新聞朝刊「外来生物問題（ウチダザリガニ）」（尾崎真澄）
2010.8.23 テレビ朝日「お願い！ランキング」「食用イソギンチャクについて」（柳研介）
2010.8. いんば農業協同組合 いあんばいです .89:2.「カミツキガメにご用心！」（尾崎真澄）

2010.9.17 千葉テレビ N E W S チバ「ドジョウ（色素異常個体）の捕獲について」（尾崎真澄）
2010.10.2 日本経済新聞社 日本経済新聞「シャープゲンゴロウモドキの保護活動について」（熊谷宏尚・柳研介）
2010.10.6 東葛毎日新聞社 ふれあい毎日「里山海からの通信 46：「これ以上，自然を減らさない国」宣言」（中村俊彦）
2010.11.3 東葛毎日新聞社 ふれあい毎日「里山海からの通信 47：「里山・里海ルネッサンス」が世界に発信」（中村俊彦）
2010.12.1 東葛毎日新聞社 ふれあい毎日「里山海からの通信 48：干潟のすごさ，三番瀬のすごさ」（中村俊彦）
2010.12.16 日本テレビ ニュースエブリイ「キョンの生態について」（浅田正彦）
2011.1.2 TBS テレビ 1 秒の世界 奇跡の海！東京湾いきもの大冒険「東京湾：三番瀬の里海的重要性」（中村俊彦）
2011.1.3 東京新聞社 東京新聞（暮らし欄）「ノウサギの生態について」（浅田正彦）
2011.2.2 東葛毎日新聞社 ふれあい毎日「里山海からの通信 49：水源の森を壊す人，買う人」（中村俊彦）
2011.3.2 東葛毎日新聞社 ふれあい毎日「里山海からの通信 50：房総ちばの生物多様性」（中村俊彦）

○**研究業績等**

中村俊彦

学術論文・学術書

中村俊彦 .2011. 東京湾と人のかかわりの歴史 . 東京湾海洋環境研究委員会（編），東京湾：人と自然のかかわりの再生 .pp.215-229. 恒星社厚生閣．
中村俊彦 .2011. 湾岸都市の里やま・里うみサンドイッチプラン . 東京湾海洋環境研究委員会（編），東京湾：人と自然のかかわりの再生 .pp.355-356. 恒星社厚生閣．

中村俊彦 .2011. 伝統的な谷津田はヒトと生き物の里 . 自然復元協会（編），写真で見える自然環境再生 .pp.36-41. オーム社．

学術報告書

中村俊彦 .2011. 里山里海と生態系の文化サービス . 千葉県生物多様性センター研究報告 .4:178-182. 千葉県生物多様性センター，千葉市．
中村俊彦・青木慎哉 .2011. 里山里海の子どもの自然体験と学校ビオトープ . 千葉県生物多様性センター研究報告 .4:183-190. 千葉県生物多様性センター，千葉市．

中村俊彦・林纘治・本田裕子・井上祥一郎・北澤哲弥・野村英明・小倉久子 .2010. 概要 . 日本の里山・里海評価関東中部クラスター（編），里山・里海：日本の社会生態学的生産ランドスケープ・関東中部の経験と教訓．pp.9-14. 国連大学，東京．

中村俊彦・林纘治・本田裕子・北澤哲弥・野村英明・小倉久子・佐藤裕一・山本美穂 .2010. 歴史的・叙文的文脈 .日本の里山・里海評価関東中部クラスター（編），里山・里海：日本の社会生態学的生産ランドスケープ・関東中部の経験と教訓 .pp.15-44. 国連大学，東京．

中村俊彦・林纘治・本田裕子・北澤哲弥・大久保達弘 .2010. シナリオ . 日本の里山・里海評価関東中部クラスター（編），里山・里海：日本の社会生態学的生産ランドスケープ・関東中部の経験と教訓 .pp.123-130. 国連大学，東京．

中村俊彦・北澤哲弥 .2011. 概要：ちばの里山里海サブグローバル評価－生物多様性ゆたかな持続可能な社会に向けて－ . 千葉県生物多様性センター研究報告 .4:3-6. 千葉県生物多様性センター，千葉市．

中村俊彦・北澤哲弥 .2011. 「国連ミレニアム生態系評価（MA）」と「日本の里山・里海評価（JSSA）」に基づく「ちばの里山里海サブグローバル評価」. 千葉県生物多様性センター研究報告 .4:8-14. 千葉県生物多様性センター，千葉市．

中村俊彦・北澤哲弥 .2011. 里山里海と都市の生態系 . 千葉県生物多様性セ

ンター研究報告 .4:35-41. 千葉県生物多様性センター，千葉市．
中村俊彦・北澤哲弥・小倉久子・吉田正彦 .2011. 持続可能な社会に向けた将来シナリオ . 千葉県生物多様性センター研究報告 .4:236-249. 千葉県生物多様性センター，千葉市．

中村俊彦・小島由美 .2011. 明治時代の里山里海の「村」の構造と生産 . 千葉県生物多様性センター研究報告 .4:22-34. 千葉県生物多様性センター，千葉市．

北澤哲弥・中村俊彦 .2011. 里山里海を変化させる要因：外部依存と人工技術依存 . 千葉県生物多様性センター研究報告 .4:216-231. 千葉県生物多様性センター，千葉市．

北澤哲弥・中村俊彦 .2011. 千葉県の環境収容人口の試算 . 千葉県生物多様性センター研究報告 .4:232-234. 千葉県生物多様性センター，千葉市．

北澤哲弥・中村俊彦 .2011. 生物多様性と生態系サービス . 千葉県生物多様性センター研究報告 .4:15-20. 千葉県生物多様性センター，千葉市．

大久保達弘・長谷川泰洋・林 纘治・本田裕子・井上祥一郎・北澤哲弥・香坂 玲・中村俊彦・野村英明・小倉久子・田中貴宏・山口和子・佐藤裕一・山本美穂・吉田正彦 .2010. 現状と傾向 . 日本の里山・里海評価関東中部クラスター（編），里山・里海：日本の社会生態学的生産ランドスケープ・関東中部の経験と教訓 .pp.45-76. 国連大学，東京．

佐土原聡・林 纘治・本田裕子・井上祥一郎・北澤哲弥・中村俊彦・野村英明・小倉久子・佐藤裕一 .2010. 変化の要因 . 日本の里山・里海評価関東中部クラスター（編），里山・里海：日本の社会生態学的生産ランドスケープ・関東中部の経験と教訓 .pp.77-96. 国連大学，東京．

高橋俊守・林 纘治・本田裕子・井上祥一郎・石崎晶子・中村俊彦・小倉久子・大黒俊哉・佐土原聡・三瓶由紀・佐藤裕一・山口和子 .2010. 里山里海に係わる対応 . 日本の里山・里海評価関東中部クラスター（編），里山・里海：日本の社会生態学的生産ランドスケープ・関東中部の経験と教訓 .pp.97-109. 国連大学，東京．

吉田正彦・山口和子・石崎晶子・小倉久子・中村俊彦 .2011. 里沼における人の営みの変遷と生態系サービス . 千葉県生物多様性センター研究報告 .4:124-151. 千葉県生物多様性センター，千葉市．

教育普及書

中村俊彦 .2011. 里山里海と私たちにとっての生物多様性 . 私たちの自然 .564:2-4. 日本鳥類保護連盟，東京都．

中村俊彦 .2011. 生物多様性の宝庫を守る . 成東・東金食虫植物群落を守る会（編），成東・東金食虫植物群落ガイド .p.6. 山武市教育委員会．

委員等

千葉大学 大学院理学研究科客員准教授

東京湾学会 副会長

国連大学高等研究所 日本の里山・里海評価 科学評価パネル

（財）日本自然保護協会 理事

ちば・谷津田フォーラム 代表

里山シンポジウム 実行委員会委員

国土交通省関東地方整備局 南関東エコロジカルネットワーク形成に関する検討委員会委員

千葉県 印旛沼流域水循環健全化会議委員

我孫子市 谷津ミュージアム事業推進専門家会議議長

千葉市 環境審議会委員

船橋市 環境審議会委員

市川市 環境審議会専門委員

山武市 成東・東金食虫植物群落保護検討委員会委員

港区 緑と水の委員会委員

熊谷宏尚

学術報告書

熊谷宏尚・遠藤和彦 .2011. 自然保護制度と里山里海の保全 . 千葉県生物多様性センター研究報告 .4:191-206. 千葉県生物多様性センター，千葉市．

森雅邦・北澤哲弥・熊谷宏尚 .2011. 里山里海の保全再生における経済的取組 . 千葉県生物多様性センター研究報告 .4:207-214. 千葉県生物多様性センター，千葉市．

教育普及書

熊谷宏尚 .2010. 外来生物ってなに？ . 千葉県生物多様性ハンドブック 2 外来生物がやってきた .2-3. 千葉県環境生活部自然保護課，千葉市．

熊谷宏尚 .2010. ちょっと待って！植樹や放流 . 千葉県生物多様性ハンドブック 2 外来生物がやってきた .16-17. 千葉県環境生活部自然保護課，千葉市．

委員等

（財）リモート・センシング技術センター 衛星データ利用推進委員会委員
環境省 平成 22 年度自然環境保全基礎調査植生調査技術専門部会活用検討部会検討委員

（財）自然環境研究センター 外来生物法施行状況評価検討会検討委員

柴田るり子

学術報告書

柴田るり子 .2011. 県民参加型モニタリング「生命のにぎわい調査団」の報告について . 千葉県生物多様性センター研究報告 .3:77-96. 千葉県生物多様性センター，千葉市．

教育普及書

柴田るり子 .2010. オオバン、バンの見分け方&情報求む、現地研修会で磯の生きものを観察、アマサギの生息情報、季節報告 .生命（いのち）のにぎわい調査団 生命のにぎわい通信 .(13)1-2. 千葉県環境生活部自然保護課，千葉市．

柴田るり子 .2010. 三番瀬のミヤコドリ、COP10 国連地球生きものの会議に参加して、代表的なカモのオス早見表、いきものみっけシンポジウムに参加しました .生命（いのち）のにぎわい調査団 生命のにぎわい通信 .(14)1-2. 千葉県環境生活部自然保護課，千葉市．

柴田るり子 .2010. わたしたちにできること . 千葉県生物多様性ハンドブック 2 外来生物がやってきた .28-29. 千葉県環境生活部自然保護課，千葉市．

柴田るり子 .2010. もっと詳しく知るために . 千葉県生物多様性ハンドブック 2 外来生物がやってきた .32. 千葉県環境生活部自然保護課，千葉市．

柴田るり子 .2010. 県内の猛禽類サシバの生息情報を求めています、季節報告 .生命（いのち）のにぎわい調査団 生命のにぎわい通信 .(12):2. 千葉県環境生活部自然保護課，千葉市．

柴田るり子 .2010. 生命のにぎわい調査団 現地研修会を開催

「初夏の海辺の生きものを知ろう！磯の生きものを観察しよう！」 . 生命のにぎわいとつながり 生物多様性ちばニュースレター .(18):3. 千葉県環境生活部自然保護課，千葉市．

柴田るり子 .2011. うさぎ年です、現地研修会を開催しました、セキレイの見分け方、これからの季節に観察できる生きもの .生命（いのち）のにぎわい調査団 生命のにぎわい通信 .(15)1-2. 千葉県環境生活部自然保護課，千葉市．

柴田るり子 .2011. 春を告げるシロチョウ 4 種の見分け方、ニホントカゲとニホンカナヘビ、ウグイス路とメジロ、調査フォーラムと写真コンテストを開催しました .生命（いのち）のにぎわい調査団 生命のにぎわい通信 .(16)1-2. 千葉県環境生活部自然保護課，千葉市．

由良浩

教育普及書

由良浩 .2010. 海岸植物－海辺でたくましく生きる植物たち－ . 生命のにぎわいとつながり 生物多様性ちばニュースレター .(18)：1-2. 千葉県環境生活部自然保護課，千葉市．

由良浩 .2010. 千葉の希少種 ナミキソウ . 生命のにぎわいとつながり生物多様性ちばニュースレター .(19)：4. 千葉県環境生活部自然保護課，千葉市．

他機関への支援活動・研究業績等

○職員

平成 22 年 4 月～平成 23 年 3 月、常勤職員（10 名）。(併)は中央博物館との併任、(兼)は環境研究センターとの兼務を示す。

	副技監	中村俊彦（併）
	主 幹	熊谷宏尚
	副主幹	柴田るり子
	副主幹	尾崎真澄
	副主幹	由良 浩（併）
	主 査	伊藤恵子
	主 査	斎木健一（併）
	主 査	浅田正彦（併）
	副主査	柳 研介（併）
	研究員	北澤哲弥（兼）

里山里海サブグローバル評価事業に関する兼務職員	
主 幹	小倉久子
主 幹	吉田正彦
主 査	宮嶋義行
主 査	宇野晃一
副主査	先崎浩明

○他機関への支援活動

・講演・講座講師・観察会講師等（55 件）

2010.4.14 民主党環境・議員政策勉強会「中山間の里山里地・田園地域における農業と野生動物保護管理」（浅田正彦）30 名

2010.4.19 千葉県「第 3 回企業と生物多様性セミナー「外来生物について」（熊谷宏尚）70 名

2010.5.29 沖縄県生物学会「生物多様性ちば県戦略とモニタリング活動」（浅田正彦）100 名

2010.6.12 千葉県「三番瀬自然環境合同調査第 1 回現地調査」（由良浩・柳研介）20 名

2010.6.18 千葉県「第 4 回企業と生物多様性セミナー「里山と生物多様性」（北澤哲弥）81 名

2010.6.19 千葉科学大学「千葉県における野生動物の保護管理の現状と課題」（浅田正彦）30 名

2010.6.25 (株)日本リモートセンシング学会「千葉県における生物多様性戦略とその取り組み」（熊谷宏尚）97 名

2010.6.26 空から見た地球上映実行委員会・自然と文化研究会 the かもめ「ふなばし「男女共同参画フェスティバル」「映画上映と生物多様性についてのミニ講演」」（由良浩）20 名

2010.6.29 (社)千葉県環境保全協議会「環境問題説明会」（伊藤恵子）140 名

2010.7.10 生物多様性条約市民ネットワーク「COP10/MOP5 カウントダウン 100 フォーラム「ビジネス&生物多様性フォーラム」：生物多様性と里山、千葉県の取組」（中村俊彦）60 名

2010.7.16. 千葉県立中央博物館友の会「第 2 回自然観察会：雲上の観察会～富士山お中道のジャクナゲのトンネルを歩こう～」(中村俊彦) 40 名

2010.7.24 エコふなばし実行委員会・学校法人中山学園「「市民まつり」エコ・ステージ」（由良浩・音谷紗絵）20 名

2010.7.29 茂原市下太田農地水環境保全向上対策協議会「自然観察会」（尾崎真澄）44 名

2010.8.1 NPO 法人千葉まちづくりサポートセンター・千葉県立中央博物館「富津岬フィールドミュージアム」（由良浩）32 名

2010.8.8 千葉県「三番瀬自然環境合同調査第 2 回現地調査」（柳研介）20 名

2010.8.21 千葉県「平成 22 年度ちばの里山里海サブグローバル評価シ

ンポジウム「里海-人と自然がつむぎだす豊穡の海」『里山里海の将来シナリオ』（中村俊彦・小倉久子・吉田正彦・宮嶋義行・北澤哲弥）40 名

2010.8.24 生活協同組合ちばコープ「2010 年度消費者力育成セミナー第 1 回「ちばの自然と生物多様性は世界一～くらしと食の里山海へ～」(中村俊彦) 70 名

2010.8.26 千葉県「第 5 回企業と生物多様性セミナー「生物多様性に配慮した緑化について」（熊谷宏尚）63 名

2010.8.29 佐倉自然同好会「講習会「外来種と生物多様性」（由良浩）25 名

2010.8.31 千葉県「千葉県におけるアライグマの歴史と現状」（浅田正彦）60 名

2010.9.24 (財) 海洋博覧会記念公園管理財団「平成 22 年度都市緑化技術講習会「千葉県の生物多様性を守るために」（由良浩）70 名

2010.9.29 千葉県生涯大学京葉学園「環境問題」（中村俊彦）139 名

2010.10.6 千葉県生涯大学京葉学園「環境問題」（中村俊彦）136 名

2010.10.20 生物多様性条約第 10 回締約国会議支援実行委員会「生物多様性交流フェア ステージイベント「千葉県の生物多様性とその保全・利用に向けた取り組み」（北澤哲弥）40 名

2010.10.23 環境省・中日新聞「COP10 パートナースhip事業いきものみっけシンポジウム」（柴田るり子）160 名

2010.10.23 袖ヶ浦市「平成 2 2 年度暮らしと環境を考える講座「生物多様性を知る」第 1 回「生物多様性って何だろう？」」（由良浩）28 名

2010.10.30 千葉県「千葉県環境研究センター公開講座「生物多様性とちばの里山里海―国連地球生きもの会議（生物多様性条約第 10 回締約国会議）を終えて―」（中村俊彦・北澤哲弥）50 名

2010.10.31 茨城県自然博物館「千葉県北部の河川湖沼における外来種について ～カミツキガメとウチダザリガニ～」(尾崎真澄) 50 名

2010.11.4 千葉県「生物多様性とは何か」（柴田るり子）40 名

2010.11.13 環境カウンセラー千葉県協議会「秋季研修会講演会：生物多様性，その重要性和私たちのくらし」（中村俊彦）30 名

2010.11.14 柏市「生物多様性をめぐる国内外の動きと私たちの暮らし」（熊谷宏尚）25 名

2010.11.16 千葉市教育研究会理科部会「野草カードと野草検索サイトを用いた植物野外観察」（斎木健一）20 名

2010.11.18 千葉県森林インストラー会「森に親しむ懇談会 142 回：生物多様性保全についてー COP10 を終わってー」（中村俊彦）30 名

2010.11.27 袖ヶ浦市「平成 2 2 年度暮らしと環境を考える講座「生物多様性を知る」第 2 回「生物多様性と特定外来生物の脅威」（浅田正彦）50 名

2010.11.28 千葉県「学校t ートp フォーラム基調講演「外来種（がいらいしゅ）ってなに？」」（尾崎真澄）165 名

2010.12.2 千葉県「「第 6 回企業と生物多様性セミナー」「COP10 で決まったこと」（斎木健一）67 名

2010.12.4. 四街道市教育委員会社会教育課「四街道市民大学講座：生物多様性は、なぜ必要か ～人類が持続可能な社会を目指すには～」(中村俊彦) 70 名

2010.12.5 柏市ストップ温暖化サポーター・柏市・千葉県「アメリカザリガニは悪者か？」(柳研介・由良浩) 35 名

2010.12.8 千葉県農林水産部農村振興課「イノシシの生息域と対策について」（浅田正彦）50 名

2010.12.12 市原市「平成 22 年度市民環境大学いちほら開講式・第 1 回講座「生物多様性について～千葉県の実情・C O P 10 ～」（北澤哲弥）70 名

2010.12.13 日本アセスメント協会「第 29 回環境システムシンポジウム「里山と里海を評価する」：里山里海の生態系と人間の福利」（中村俊彦）90 名

2010.12.15 ちば里山センター・千葉県「企業と里山セミナー基調講演：

里山と生物多様性」（中村俊彦）50 名

2011.1.21 金沢大学「第 2 回能登総合シンポジウム：コメンテーター」（中村俊彦）70 名

2011.1.22 南房総市「市民・環境学習会「外来生物が来た！」（斎木健一）57 名

2011.1.17 鴨川市「鴨川市の自然」（浅田正彦）15 名

2011.1.23 香取市「生物多様性についての公開学習会「生物多様性と里山・里川を伝える」（中村俊彦）52 名

2011.1.30 環境省関東地方環境事務所「市民がまもる生物多様性フォーラム：里山里海の生物多様性保全と新たなコモンズ」（中村俊彦）70 名

2010.2.5 (財) 千葉県栄養士会「千葉県栄養改善学会文化講演会：生物多様性と食」（中村俊彦）100 名

2011.2.5 千葉県市川市「市川市講演会「生物多様性と水辺の生き物」（尾崎真澄）60 名

2011.2.10 千葉県「第 7 回企業と生物多様性セミナー「千葉県の自然の紹介」（由良浩）30 名

2011.2.11 沖縄県「生物多様性千葉戦略の作り方、動かし方」（浅田正彦）30 名

2011.2.28 金沢大学・総合地球環境研究所「シンポジウム「半島の現状と未来」：半島での人・自然・文化の景相と里山里海」（中村俊彦）40 名

2011.3.5 千葉県「平成 22 年度生命のにぎわい調査フォーラム「調査報告のまとめと今後の活用」（柴田るり子）51 名

2011.3.5 千葉県「生命のにぎわい調査フォーラム「千葉県の外来生物～私たちにできること～」」（尾崎真澄）60 名

2011. 3.10. 千葉県庁技術士会「平成 22 度勉強会「生物多様性―COP10 を終えて―：COP10 でどう変わるのか」（中村俊彦）40 名

・視察受入（11 件）

2010.4.6 徳島県議会議員「生物多様性ちば県戦略について」

2010.7.22 名古屋市環境局「市民協働による調査活動状況等」

2010.7.23 佐渡市議会産業建設常任委員会「生物多様性ちば県戦略について」

2010.7.30 徳島県議会議員・徳島県商工 3 団体青年部「環境教育としての里山活動・里山活動への企業の参加等」

2010.7.30 黒松内町環境政策課「生物多様性ちば県戦略について」

2010.8.30 岡山県環境文化部自然環境課「自然保護施策の取組状況について」

2010.9.1 (財)東京市町村自治調査会「生物多様性の保全及び再生に関する調査」

2010.11.2 石川県議会循環型社会形成特別委員会「生物多様性の取組について」

2011.1.20 埼玉県環境部自然保護課・埼玉県環境科学国際センター「生物多様性センターの業務等」

2011.2.2 沖縄県文化環境部自然環境課「生物多様性ちば県戦略について」

2011.2.24 長野県環境保全研究所「生物多様性センター事業に関する情報収集」

・生物多様性モデル事業による助成（18 件（うち市 2 件））
佐久間湖畔里山保全クラブ（鋸南町）：ホテル生息地の管理、遊歩道の整備、勉強会の開催、パンフレット配布
上総自然学校（袖ヶ浦市）：谷津田の整備、隣接する山の下草刈り、体験イベントや自然観察会の開催
緑の環・協議会（千葉市）：山砂採集跡地への植林及び除草作業、自然観察会、活動報告書の作成
N P O 法人 ちば森林資源コンサーブ（君津市）：森林の枝打ちや下草刈り、周遊路の整備、小中学生の環境学習の場の提供、植物の展示パネルの作成
風呂の前里山保存会（市原市）：里山整備と遊歩道の整備、観察会の開催、

里山の植物ガイドブックの制作

谷田武西の原っぱと森の会（白井市・印西市）：新興住宅地に残った貴重な草原の保全。外来種の除去や草刈、ゴミ拾いや、各種モニタリング調査
N P O 法人しろい環境塾（白井市）：耕作放棄地の復元、無農薬栽培の実施、冬期湛水、自然観察会

グループ 2000（環境に学ぶ）（県内小学校）：学校のプールに浮島を浮かべ、植物や様々な小動物を呼び寄せ、小学校での環境学習の題材とする。

大多喜シャープゲンゴロウモドキを守る会（大多喜町）：希少種のシャープゲンゴロウモドキを保全するための生息地の整備及び採取を防ぐパトロールの実施

八千代市「はたるの里づくり」実行委員会（八千代市）：市内の谷津の湧水調査と生き物調査、「ホタルの里」でのザリガニ退治と水路整備

N P O 法人さんむ杉の子会（山武市）：里山体験イベントの開催、森林の植物調査、間伐材の搬出

N P O 法人ちば環境情報センター（千葉市緑区）：観察会及び生き物マップの作成し、環境学習に活かす

里山応援隊（千葉市・佐倉市）：谷津田での観察会、収穫祭での谷津田のアピール

市原米沢の森を考える会（市原市）：森の整備及び現地を活用した里山体験、自然観察会の実施

N P O 法人ラーバン千葉ネットワーク（印西市）：人材育成を念頭に置いた観察会の開催、里山の生き物解説掲示板の製作、リーフレット印刷

関さんの森をはぐむ会（松戸市）：都市部に残された関さんの森にある遊水地を整備し、水辺環境を保全する
市川市：水生生物実態調査
柏市：環境審議会運営費、調査経費、報告書作成支援

・作成協力等（1 件）

2010.12 株式会社 新学社「小学校向け千葉県版理科テスト用資料作成」（尾崎真澄）

・研修生等受入（4 件）

2010.4 ～ 2011.3 卒業研究生，東邦大学，1 名

2010.8.16 ～ 8.20 インターンシップ，東邦大学，1 名

2010.9.6 ～ 9.10 インターンシップ，千葉大学，1 名

2010.9.6.14 ～ 9.21 インターンシップ，東邦大学，1 名

○情報発信

・展示等による情報発信（19 件）

2010.5.4 グリーンフェスティバル 2010(流山市) 於：流山おおたかの森駅前．

2010.6.1-7 温暖化と生物多様性展示（柏市） 於：そごう柏店 8 階．

2010.6.5 第 1 3 回船橋市環境フェア（船橋市環境フェア実行委員会） 於：船橋中央公民館．

2010.6.10-13 環境フェア（習志野市・イオン） 於：イオン津田沼ショッピングセンター．

2010.6.19 浦安市環境フェア（浦安市） 於：新浦安駅前広場．

2010.6.26 いちかわ環境フェア 2010（市川市） 於：県立現代産業科学博物館．

2010.6.29 ちばし環境フェスティバル（千葉市など） 於：京葉銀行文化プラザ．

2010.7.4 香取市環境フォーラム 2010（香取市） 於：佐原中央公民館 3 階大会議室．

2010.7.23-10.29 企画展 “生物多様性って何だ !?”（県環境研究センター・県生物多様性センター） 於：県環境研究センター．

2010.7.28-8.5 昆虫展（八千代市） 於：八千代市郷土博物館．

2010.8 月 -12 月 京葉ガスショールームでの展示（京葉ガス㈱） 於：市川ショールーム．

他機関への支援活動・研究業績等

2010.8.18-8.22 巨樹・古木フォーラム in きみつ「ギャラリー展示」（巨樹・古木フォーラム in きみつ実行委員会） 於：君津市生涯学習交流センター．
2010.8月下旬 -10 月中旬 東京ガスショールームでの展示（東京ガス㈱・東京ガスライフバル千葉（株）） 於：東京ガスショールーム．
2010.8月下旬 -10 月中旬 角栄ガスショールームでの展示（角栄ガス㈱） 於：角栄ガス㈱志津事業所．
2010.9.5 エコメッセ 2010 in ちば（エコメッセ 2010in ちば実行委員会） 於：幕張メッセ 国際会議場．
2010.10.16 流山市ピオキップ１０（流山市／（財）自治総合センター） 於：流山市生涯学習センター．
2010.11.13 第 41 回ガスフェスタ（習志野市企業局） 於：習志野市役所前．
2010.11.21 富里リサイクルフェア（富里市・富里市環境美化推進協議会） 於：富里中央公園イベント広場．
2011.2.26-27 平成 22 年度マリンサイエンスギャラリー「水辺の生きものあれこれ」（千葉県立中央博物館分館海の博物館） 於：県立中央博物館分館海の博物館．

・**マスコミを通じての情報発信（30 件）**

2010.4.4 日本経済新聞 日本経済新聞日曜版サイエンス面「外来生物問題（カミツキガメ）」（尾崎真澄）
2010.4.7 東葛毎日新聞社 ふれあい毎日「里山海からの通信 41：里山の味「ツクシ」と外国産マグロ」（中村俊彦）
2010.4.14 読売新聞 読売新聞夕刊「外来生物問題（ウチダザリガニ）」（尾崎真澄）
2010.4.16 テレビ朝日 スーパー J チャンネル「ウチダザリガニについて」（熊谷宏尚・尾崎真澄）
2010.5.5 東葛毎日新聞社 ふれあい毎日「里山海からの通信 42：やさしさを育む教育「ビオトープ」」（中村俊彦）
2010.5.30 読売新聞社 読売新聞「ちば水辺の生命 145：トキ帰帰する日も」（中村俊彦）
2010.5.14 成田ケーブルテレビ ニュース「ウチダザリガニについて」（熊谷宏尚・尾崎真澄）
2010.5.24 新潟日報社 新潟日報「生物多様性ちば県戦略について」（熊谷宏尚）
2010.6.2 東葛毎日新聞社 ふれあい毎日「里山海からの通信 43：「都市の縮退」と里山海のルネッサン」（中村俊彦）
2010.6.16 千葉日報社 千葉日報朝刊「カミツキガメ防除事業開始」（熊谷宏尚・尾崎真澄）
2010.6.16 千葉テレビ ニュース「カミツキガメ防除事業開始」（熊谷宏尚・尾崎真澄）
2010.6.17 フジテレビ とくダネ！「カミツキガメについて」（熊谷宏尚）
2010.6.17 JA 千葉中央会 日本農業新聞「カミツキガメ防除事業開始」（熊谷宏尚・尾崎真澄）
2010.7.7 東葛毎日新聞社 ふれあい毎日「里山海からの通信 44:田字草（デンジソウ）」（中村俊彦）
2010.7.20 T V 東京 火曜エンターテインメント「外来生物問題（カミツキガメ）」（尾崎真澄）
2010.7.18 日本テレビ 真相報道バンキシャ！「カミツキガメの捕獲について」（熊谷宏尚）
2010.8.4 東葛毎日新聞社 ふれあい毎日「里山海からの通信 45：アメリカザリガニ」（中村俊彦）
2010.8.6 読売新聞社 読売新聞朝刊「外来生物問題（ウチダザリガニ）」（尾崎真澄）
2010.8.23 テレビ朝日「お願い！ランキング」「食用イソギンチャクについて」（柳研介）
2010.8. いんば農業協同組合 いあんばいです .89:2.「カミツキガメにご用心！」（尾崎真澄）

2010.9.17 千葉テレビ N E W S チバ「ドジョウ（色素異常個体）の捕獲について」（尾崎真澄）
2010.10.2 日本経済新聞社 日本経済新聞「シャープゲンゴロウモドキの保護活動について」（熊谷宏尚・柳研介）
2010.10.6 東葛毎日新聞社 ふれあい毎日「里山海からの通信 46：「これ以上，自然を減らさない国」宣言」（中村俊彦）
2010.11.3 東葛毎日新聞社 ふれあい毎日「里山海からの通信 47：「里山・里海ルネッサンス」が世界に発信」（中村俊彦）
2010.12.1 東葛毎日新聞社 ふれあい毎日「里山海からの通信 48：干潟のすごさ，三番瀬のすごさ」（中村俊彦）
2010.12.16 日本テレビ ニュースエブリイ「キョンの生態について」（浅田正彦）
2011.1.2 TBS テレビ 1 秒の世界 奇跡の海！東京湾いきもの大冒険「東京湾：三番瀬の里海的重要性」（中村俊彦）
2011.1.3 東京新聞社 東京新聞（暮らし欄）「ノウサギの生態について」（浅田正彦）
2011.2.2 東葛毎日新聞社 ふれあい毎日「里山海からの通信 49：水源の森を壊す人，買う人」（中村俊彦）
2011.3.2 東葛毎日新聞社 ふれあい毎日「里山海からの通信 50：房総ちばの生物多様性」（中村俊彦）

○**研究業績等**

中村俊彦

学術論文・学術書

中村俊彦 .2011. 東京湾と人のかかわりの歴史 . 東京湾海洋環境研究委員会（編），東京湾：人と自然のかかわりの再生 .pp.215-229. 恒星社厚生閣．
中村俊彦 .2011. 湾岸都市の里やま・里うみサンドイッチプラン . 東京湾海洋環境研究委員会（編），東京湾：人と自然のかかわりの再生 .pp.355-356. 恒星社厚生閣．

中村俊彦 .2011. 伝統的な谷津田はヒトと生き物の里 . 自然復元協会（編），写真で見る自然環境再生 .pp.36-41. オーム社．

学術報告書

中村俊彦 .2011. 里山里海と生態系の文化サービス . 千葉県生物多様性センター研究報告 .4:178-182. 千葉県生物多様性センター，千葉市．
中村俊彦・青木慎哉 .2011. 里山里海の子どもの自然体験と学校ビオトープ . 千葉県生物多様性センター研究報告 .4:183-190. 千葉県生物多様性センター，千葉市．

中村俊彦・林纈治・本田裕子・井上祥一郎・北澤哲弥・野村英明・小倉久子 .2010. 概要 . 日本の里山・里海評価関東中部クラスター（編），里山・里海：日本の社会生態学的生産ランドスケープ・関東中部の経験と教訓．pp.9-14. 国連大学，東京．

中村俊彦・林纈治・本田裕子・北澤哲弥・野村英明・小倉久子・佐藤裕一・山本美穂 .2010. 歴史的・叙文的文脈 .日本の里山・里海評価関東中部クラスター（編），里山・里海：日本の社会生態学的生産ランドスケープ・関東中部の経験と教訓 .pp.15-44. 国連大学，東京．

中村俊彦・林纈治・本田裕子・北澤哲弥・大久保達弘 .2010. シナリオ . 日本の里山・里海評価関東中部クラスター（編），里山・里海：日本の社会生態学的生産ランドスケープ・関東中部の経験と教訓 .pp.123-130. 国連大学，東京．

中村俊彦・北澤哲弥 .2011. 概要：ちばの里山里海サブグローバル評価－生物多様性ゆたかな持続可能な社会に向けて－ . 千葉県生物多様性センター研究報告 .4:3-6. 千葉県生物多様性センター，千葉市．

中村俊彦・北澤哲弥 .2011. 「国連ミレニアム生態系評価（MA）」と「日本の里山・里海評価（JSSA）」に基づく「ちばの里山里海サブグローバル評価」. 千葉県生物多様性センター研究報告 .4:8-14. 千葉県生物多様性センター，千葉市．

中村俊彦・北澤哲弥 .2011. 里山里海と都市の生態系 . 千葉県生物多様性セ

ンター研究報告 .4:35-41. 千葉県生物多様性センター，千葉市．
中村俊彦・北澤哲弥・小倉久子・吉田正彦 .2011. 持続可能な社会に向けた将来シナリオ . 千葉県生物多様性センター研究報告 .4:236-249. 千葉県生物多様性センター，千葉市．

中村俊彦・小島由美 .2011. 明治時代の里山里海の「村」の構造と生産 . 千葉県生物多様性センター研究報告 .4:22-34. 千葉県生物多様性センター，千葉市．

北澤哲弥・中村俊彦 .2011. 里山里海を変化させる要因：外部依存と人工技術依存 . 千葉県生物多様性センター研究報告 .4:216-231. 千葉県生物多様性センター，千葉市．

北澤哲弥・中村俊彦 .2011. 千葉県の環境収容人口の試算 . 千葉県生物多様性センター研究報告 .4:232-234. 千葉県生物多様性センター，千葉市．

北澤哲弥・中村俊彦 .2011. 生物多様性と生態系サービス . 千葉県生物多様性センター研究報告 .4:15-20. 千葉県生物多様性センター，千葉市．

大久保達弘・長谷川泰洋・林 纈治・本田裕子・井上祥一郎・北澤哲弥・香坂 玲・中村俊彦・野村英明・小倉久子・田中貴宏・山口和子・佐藤裕一・山本美穂・吉田正彦 .2010. 現状と傾向 . 日本の里山・里海評価関東中部クラスター（編），里山・里海：日本の社会生態学的生産ランドスケープ・関東中部の経験と教訓 .pp.45-76. 国連大学，東京．

佐土原聡・林 纈治・本田裕子・井上祥一郎・北澤哲弥・中村俊彦・野村英明・小倉久子・佐藤裕一 .2010. 変化の要因 . 日本の里山・里海評価関東中部クラスター（編），里山・里海：日本の社会生態学的生産ランドスケープ・関東中部の経験と教訓 .pp.77-96. 国連大学，東京．

高橋俊守・林 纈治・本田裕子・井上祥一郎・石崎晶子・中村俊彦・小倉久子・大黒俊哉・佐土原聡・三瓶由紀・佐藤裕一・山口和子 .2010. 里山里海に係わる対応 . 日本の里山・里海評価関東中部クラスター（編），里山・里海：日本の社会生態学的生産ランドスケープ・関東中部の経験と教訓 .pp.97-109. 国連大学，東京．

吉田正彦・山口和子・石崎晶子・小倉久子・中村俊彦 .2011. 里沼における人の営みの変遷と生態系サービス . 千葉県生物多様性センター研究報告 .4:124-151. 千葉県生物多様性センター，千葉市．

教育普及書

中村俊彦 .2011. 里山里海と私たちにとっての生物多様性 . 私たちの自然 .564:2-4. 日本鳥類保護連盟，東京都．
中村俊彦 .2011. 生物多様性の宝庫を守る . 成東・東金食虫植物群落を守る会（編），成東・東金食虫植物群落ガイド .p.6. 山武市教育委員会．

委員等

千葉大学 大学院理学研究科客員准教授
東京湾学会 副会長
国連大学高等研究所 日本の里山・里海評価 科学評価パネル（財）日本自然保護協会 理事
ちば・谷津田フォーラム 代表
里山シンポジウム 実行委員会委員
国土交通省関東地方整備局 南関東エコロジカルネットワーク形成に関する検討委員会委員
千葉県 印旛沼流域水循環健全化会議委員
我孫子市 谷津ミュージアム事業推進専門家会議議長
千葉市 環境審議会委員
船橋市 環境審議会委員
市川市 環境審議会専門委員
山武市 成東・東金食虫植物群落保護検討委員会委員
港区 緑と水の委員会委員

熊谷宏尚

学術報告書

熊谷宏尚・遠藤和彦 .2011. 自然保護制度と里山里海の保全 . 千葉県生物多様性センター研究報告 .4:191-206. 千葉県生物多様性センター，千葉市．

森雅邦・北澤哲弥・熊谷宏尚 .2011. 里山里海の保全再生における経済的取組 . 千葉県生物多様性センター研究報告 .4:207-214. 千葉県生物多様性センター，千葉市．

教育普及書

熊谷宏尚 .2010. 外来生物ってなに？ . 千葉県生物多様性ハンドブック 2 外来生物がやってきた .2-3. 千葉県環境生活部自然保護課，千葉市．

熊谷宏尚 .2010. ちょっと待って！植樹や放流 . 千葉県生物多様性ハンドブック 2 外来生物がやってきた .16-17. 千葉県環境生活部自然保護課，千葉市．

委員等

（財）リモート・センシング技術センター 衛星データ利用推進委員会委員
環境省 平成 22 年度自然環境保全基礎調査植生調査技術専門部会活用検討部会検討委員
（財）自然環境研究センター 外来生物法施行状況評価検討会検討委員

柴田るり子

学術報告書

柴田るり子 .2011. 県民参加型モニタリング「生命のにぎわい調査団」の報告について . 千葉県生物多様性センター研究報告 .3:77-96. 千葉県生物多様性センター，千葉市．

教育普及書

柴田るり子 .2010. オオバン、バンの見分け方&情報求む、現地研修会で磯の生きものを観察、アマサギの生息情報、季節報告 .生命（いのち）のにぎわい調査団 生命のにぎわい通信 .(13)1-2. 千葉県環境生活部自然保護課，千葉市．

柴田るり子 .2010. 三番瀬のミヤコドリ、COP10 国連地球生きものの会議に参加して、代表的なカモのオス早見表、いきものみっけシンポジウムに参加しました .生命（いのち）のにぎわい調査団 生命のにぎわい通信 .(14)1-2. 千葉県環境生活部自然保護課，千葉市．

柴田るり子 .2010. わたしたちにできること . 千葉県生物多様性ハンドブック 2 外来生物がやってきた .28-29. 千葉県環境生活部自然保護課，千葉市．

柴田るり子 .2010. もっと詳しく知るために . 千葉県生物多様性ハンドブック 2 外来生物がやってきた .32. 千葉県環境生活部自然保護課，千葉市．
柴田るり子 .2010. 県内の猛禽類サシバの生息情報を求めています、季節報告 .生命（いのち）のにぎわい調査団 生命のにぎわい通信 .(12):2. 千葉県環境生活部自然保護課，千葉市．

柴田るり子 .2010. 生命のにぎわい調査団 現地研修会を開催「初夏の海辺の生きものを知ろう！磯の生きものを観察しよう！」 . 生命のにぎわいとつながり 生物多様性ちばニュースレター .(18):3. 千葉県環境生活部自然保護課，千葉市．

柴田るり子 .2011. うさぎ年です、現地研修会を開催しました、セキレイの見分け方、これからの季節に観察できる生きもの .生命（いのち）のにぎわい調査団 生命のにぎわい通信 .(15)1-2. 千葉県環境生活部自然保護課，千葉市．

柴田るり子 .2011. 春を告げるシロチョウ 4 種の見分け方、ニホントカゲとニホンカナヘビ、ウグイス路とメジロ、調査フォーラムと写真コンテストを開催しました .生命（いのち）のにぎわい調査団 生命のにぎわい通信 .(16)1-2. 千葉県環境生活部自然保護課，千葉市．

由良浩

教育普及書

由良浩 .2010. 海岸植物－海辺でたくましく生きる植物たち－. 生命のにぎわいとつながり 生物多様性ちばニュースレター .(18)：1-2. 千葉県環境生活部自然保護課，千葉市．

由良浩 .2010. 千葉の希少種 ナミキソウ . 生命のにぎわいとつながり生物多様性ちばニュースレター .(19)：4. 千葉県環境生活部自然保護課，千葉市．

他機関への支援活動・研究業績等

由良浩．2010. ハリエンジュとクズ．千葉県生物多様性ハンドブック2 外来生物がやってきた .24-25. 千葉県環境生活部自然保護課，千葉市．

研究発表

由良浩．2011.3. 砂丘植生を取り巻く危機的状況とその要因．第 58 回日本生態学会．札幌コンベンションセンター，札幌．

委員等

(財) リモート・センシング技術センター 衛星データ利用推進委員会委員
山武・東金食虫植物群落保護検討委員会 作業部会委員

尾崎真澄

学術論文・学術書

片野修・佐久間徹・岩崎順・喜多明・尾崎真澄・坂本浩・山崎裕治・阿部夏丸・新見克也・上垣雅史．2010. 日本におけるチャネルキャットフィッシュの現状．保全生態学研究 .15:147-152.

Nakata,K., N.Hayashi, M.Ozaki, A.Ohtaka and J.Miwa.2010.First record of the North American invasive crayfish *Pacifastacus leniusculus* from the Kanto region, Tone River basin, central Japan:a range expansion to a warm water area. Plankton and Benthos Research.5(4):165-168.

学術報告書

尾崎真澄・光岡佳納子・高橋洋生．2011. 千葉県利根川水系におけるウチダザリガニ *Pacifastacus leniusculus* の生息状況．千葉県生物多様性センター研究報告 .3:65-76. 千葉県生物多様性センター，千葉市．

教育普及書

尾崎真澄．2010. 千葉県の希少種 ニホンアカガエル．生命のにぎわいとつながり 生物多様性ちばニュースレター .(20):4. 千葉県環境生活部自然保護課，千葉市．

尾崎真澄．2010. 外来生物が病気を運ぶ．千葉県生物多様性ハンドブック 2 外来生物がやってきた .8. 千葉県環境生活部自然保護課，千葉市．

尾崎真澄．2010. 国内からでも外来？．千葉県生物多様性ハンドブック 2 外来生物がやってきた .9. 千葉県環境生活部自然保護課，千葉市．

尾崎真澄．2010. カミツキガメ．千葉県生物多様性ハンドブック 2 外来生物がやってきた .20-21. 千葉県環境生活部自然保護課，千葉市．

研究発表

Nakata,K.,N.Hayashi,M.Ozaki,A.Ohtaka and J.Miwa.2010.6.First record of the North American invasive crayfish *Pacifastacus leniusculus* from the Kanto region, Tone River basin, central Japan:a range expansion to a warm water area.7th International Crustacean Congress. 青島市，中国．
中田和義・林紀男・尾崎真澄・大高明史・三輪準二．2010.10. 特定外来生物ウチダザリガニの関東での初記録：高水温域への分布拡大 .2010 年度日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会．東京大学大気海洋研究所，柏市．

委員等

(財) 自然環境研究センター 外来生物法施行状況評価検討会委員
印旛沼流域水循環健全化会議 生態系ワーキング委員

斎木健一

教育普及書

斎木健一．2010. 特定外来生物 ナルトサワギク．生命のにぎわいとつながり 生物多様性ちばニュースレター .(19):3. 千葉県環境生活部自然保護課，千葉市．

斎木健一．2010. ナルトサワギク．千葉県生物多様性ハンドブック 2 外来生物がやってきた .26-27. 千葉県環境生活部自然保護課，千葉市．

小林快次・斎木健一．2010. パレオントグラフィ 最後の恐竜時代 中生代白亜紀．ニュートン .30(5):118-119. ニュートン，東京．

富田幸光・斎木健一．2010. パレオントグラフィ 哺乳類の繁栄がはじまった 新生代古第三紀．ニュートン .30(5):118-119. ニュートン，東京．
富田幸光・斎木健一．2010. パレオントグラフィ 哺乳類の多様化がすす

む 新生代新第三紀．ニュートン .30(6):116-117. ニュートン，東京．
富田幸光・斎木健一．2010. パレオントグラフィ 多くの大型哺乳類が姿を消した時代 新生代新第四紀．ニュートン .30(7):120-121. ニュートン，東京．

研究発表

斎木健一・天野誠・林延哉．2010.8. 野草の名前調べはなぜ難しいか：原因と対策 ー教員を対象とした野外調査で明らかになったこと．第 60 回日本理科教育学会全国大会．山梨大学，甲府市．

委員等

日本地質学会 自然史学会連合連絡委員

自然史学会連合 運営委員

千葉県生物学会 幹事

浅田正彦

学術論文・学術書

高田まゆら・鈴木牧・落合啓二・浅田正彦・宮下直．2010. 景観構造を考慮したニホンジカによる水稻被害発生機構の解明とリスクマップの作成．保全生態学研究 .15:203-210.

学術報告書

浅田正彦．2011.2009 年度『野生獣の生息状況・農作物被害状況アンケート調査』結果．千葉県生物多様性センター研究報告 .3:1-15. 千葉県生物多様性センター，千葉市．

浅田正彦．2011. 千葉県におけるニホンジカの分布域および個体数推定（2010 年）．千葉県生物多様性センター研究報告 .3:16-27. 千葉県生物多様性センター，千葉市．

浅田正彦．2011. 千葉県におけるニホンジカの捕獲状況及び栄養状態モニタリング（2010 年）．千葉県生物多様性センター研究報告 .3:28-35. 千葉県生物多様性センター，千葉市．

浅田正彦．2011. 千葉県におけるキョンの分布域及び個体数推定(2010 年)．千葉県生物多様性センター研究報告 .3:36-43. 千葉県生物多様性センター，千葉市．

浅田正彦．2011. 千葉県におけるキョンの栄養状態のモニタリング（2010 年）．千葉県生物多様性センター研究報告 .3:44-48. 千葉県生物多様性センター，千葉市．

浅田正彦．2011. 千葉県におけるイノシシの分布、捕獲、被害状況（2009 年度）．千葉県生物多様性センター研究報告 .3:49-64. 千葉県生物多様性センター，千葉市．

北澤哲弥・浅田正彦．2011. 里山における野生鳥獣の保護管理と生態系サービス．千葉県生物多様性センター研究報告 .4:105-123. 千葉県生物多様性センター，千葉市．

柳研介・浅田正彦・北澤哲弥．2011. 千葉県における野生生物の現状．千葉県生物多様性センター研究報告 .4:53-69. 千葉県生物多様性センター，千葉市．

教育普及書

浅田正彦．2010. ストップ！獣害～獣害イノシシ対策その1～．いすみ農業改良普及だより .(51):3. 千葉県，大多喜町．

浅田正彦．2010. 自治体の最前線から 千葉発 千葉県生物多様性センター・環境行政業務を行う研究者のいる部屋 ー野生生物戸戸端会議 Wildlife Forum.15(1):18-19. 野生生物保護学会，東京都．

浅田正彦．2010. 集落にまわりにひとつでもこんな痕があったらイノシシに注意！．いすみ農業改良普及だより .(52):2-3. 千葉県，大多喜町．

浅田正彦．2010. 早めの発見、早めの対応．千葉県生物多様性ハンドブック 2 外来生物がやってきた .12-13. 千葉県環境生活部自然保護課，千葉市．

浅田正彦．2010. アカゲザルとニホンザル．千葉県生物多様性ハンドブック 2 外来生物がやってきた .22-23. 千葉県環境生活部自然保護課，千葉市．

浅田正彦．2010. 県内の外来植物情報がまとまりました．生命（いのち）のにぎわい調査団 生命のにぎわい通信 .(12):1. 千葉県環境生活部自然保護課，千葉市．

浅田正彦．2011. 千葉県の外来種 アカゲザル．生命のにぎわいとつながり 生物多様性ちばニュースレター .(21):4. 千葉県環境生活部自然保護課，千葉市．

研究発表

浅田正彦．2011.3. 千葉県の生物多様性保全関連施策における千葉県生物多様性センターの役割ーとくにイノシシ、シカ、サルなどの保護管理施策を中心に．日本生態学会 2010 年度大会．札幌コンベンションセンター，札幌．

平井美英・浅田正彦．2011.3. 都市近郊里山におけるイノシシの耕作放棄田利用状況．日本生態学会 2010 年度大会．札幌コンベンションセンター，札幌．

久保達也，高田まゆら，鈴木 牧，落合啓二，浅田正彦，宮下 直．2011.3. イノシシによる水稻被害のレベルに影響を与える景観要素及び被害レベルが決まる空間スケールの特定．日本生態学会 2010 年度大会．札幌コンベンションセンター，札幌．

委員等

日本哺乳類学会 保護管理委員会外来生物対策作業部会委員

日本哺乳類学会 保護管理委員会シカ対策作業部会委員

八千代市 谷津・里山保全推進会議委員

鴨川市 嶺岡牧再生戦略会議委員

兵庫県立大学 環境省受託研究「環境研究総合推進費」の推進に係るアドバイザー

柳研介

学術論文・学術書

Ohtsuka,S., U.Konodo, Y.Sakai, T. Shimazu, M.Shimomura, T.Komai, K. Yanagi, T.Fujita, J.Nishikawa, H. Miyake, BAV. Maranam K. Go, K. Nagaguchi, S.Yamaguchi, C. Dechasakulwatana, K.Srinui, S.P. Mulyadi, N.M. Sutomo and F.Md. Yusoff. 2010. *In-situ* observations of symbionts on medusae occurring in Japan, Thailand, Indonesia and Malaysia. Bulletin of the Hiroshima University Museum.2:9-18.
Reimer,J.D., Md M.R. Shah, F.Sinniger, K.Yanagi and S.Suda.2010.Preliminary analyses of cultured *Symbiodinium* isolated from sand in the oceanic Ogasawara Islands, Japan. Marine Biodiversity.40:237-247.

学術報告書
柳研介・浅田正彦・北澤哲弥．2011. 千葉県における野生生物の現状．千葉県生物多様性センター研究報告 .4:53-69. 千葉県生物多様性センター，千葉市．

教育普及書
柳研介．2010. 生きもののつながり雑学コーナー「イシワケイソギンチャク」．私たちの自然 .(559):10. 日本鳥類保護連盟，東京都．

柳研介．2010. 人間活動が里海の生物多様性に与える影響．平成 22 年度ちばの里山里海サブグローバル評価シンポジウム資料集「里海-人と自然がつむぎだす豊穣の海」.p.22. 千葉県環境生活部自然保護課，千葉市．

柳研介．2010. え！これも外来生物？．千葉県生物多様性ハンドブック 2 外来生物がやってきた .10-11. 千葉県環境生活部自然保護課，千葉市．

柳研介．2010. 外来生物の何が問題なの？．千葉県生物多様性ハンドブック 2 外来生物がやってきた .4-5. 千葉県環境生活部自然保護課，千葉市．

柳研介．2010. アメリカザリガニ．千葉県生物多様性ハンドブック 2 外来生物がやってきた .18-19. 千葉県環境生活部自然保護課，千葉市．

柳研介．2011. ヒメコマツ観察会ー絶滅が危惧されるヒメコマツの保護活動を知るー．生命のにぎわいとつながり 生物多様性ちばニュースレター .(22):4. 千葉県環境生活部自然保護課，千葉市．
柳研介．2011. シャープゲンゴロウモドキ．平成 22 年度マリンサイエンス

ギャラリー展示解説シート .1. 千葉県立中央博物館分館海の博物館，勝浦市．

柳研介・岩尾研二．2010. キンチャクガニ類が保持するイソギンチャクの分類学的研究．うみうし通信 .(68):6-8. 水産無脊椎動物研究所，東京都．

研究発表

Reimer, J.D., M. Hirose, K. Yanagi and F. Sinniger.2010.12.Diversity of zoanthids and their *Symbiodinium* in the Ogasawara Islands. 日本サンゴ礁学会第 13 回大会．つくばカピオ，つくば市．

柳研介．2010.10. 千葉県の絶滅危惧種、シャープゲンゴロウモドキおよびヒメコマツの回復計画について．第 13 回自然系調査研究機関連絡会議（NORNAC）．ウィルあいち，名古屋市．

柳研介・近藤祐介・大塚攻．2010.10. 潮間帯イソギンチャク類 3 種への吸虫類メタセルカリアの寄生について．2010 年度日本ベントス学会・日本プランクトン学会合同大会．東京大学大気海洋研究所，柏市．

柳研介．2010.10. 潮間帯イソギンチャクの捕食者についての 1 考察．第 6 回刺胞動物等研究談話会．琉球大学，沖縄県．

柳研介・岩尾研二．2010.5. カニハサミイソギンチャクの分類学的再検討．日本動物分類学会第 46 回大会．国立科学博物館，新宿．

委員等

日本ベントス学会 自然史学会連合連絡委員

日本刺胞・有櫛動物研究談話会 幹事

伊藤恵子

教育普及書

伊藤恵子．2010. 主な外来生物．千葉県生物多様性ハンドブック 2 外来生物がやってきた .30-31. 千葉県環境生活部自然保護課，千葉市．

伊藤恵子．2010. 国連地球生きものの会議開催ー名古屋議定書、愛知目標を採択ー．生命のにぎわいとつながり 生物多様性ちばニュースレター .(20):1-2. 千葉県環境生活部自然保護課，千葉市．

北澤哲弥

学術報告書

北澤哲弥．2011. 生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）併催屋外展示会「生物多様性交流フェア」活動報告．千葉県生物多様性センター研究報告 .3: 97-104. 千葉県生物多様性センター，千葉市．

北澤哲弥．2011. 里山里海の社会的地域区分．千葉県生物多様性センター研究報告 .4:42-45. 千葉県生物多様性センター，千葉市．

北澤哲弥．2011. 千葉県の社会の移りかわり：人口と土地利用の変遷．千葉県生物多様性センター研究報告 .4:46-51. 千葉県生物多様性センター，千葉市．

北澤哲弥．2011. 里山における農地利用と生態系サービス．千葉県生物多様性センター研究報告 .4:70-88. 千葉県生物多様性センター，千葉市．

北澤哲弥・浅田正彦．2011. 里山における野生鳥獣の保護管理と生態系サービス．千葉県生物多様性センター研究報告 .4:105-123. 千葉県生物多様性センター，千葉市．

北澤哲弥・中村俊彦．2011. 里山里海を変化させる要因：外部依存と人工技術依存．千葉県生物多様性センター研究報告 .4:216-231. 千葉県生物多様性センター，千葉市．

北澤哲弥・中村俊彦．2011. 千葉県の環境収容人口の試算．千葉県生物多様性センター研究報告 .4:232-234. 千葉県生物多様性センター，千葉市．

北澤哲弥・中村俊彦．2011. 生物多様性と生態系サービス．千葉県生物多様性センター研究報告 .4:15-20. 千葉県生物多様性センター，千葉市．

北澤哲弥・西野文智．2011. 里山における森林利用と生態系サービス．千葉県生物多様性センター研究報告 .4:89-104. 千葉県生物多様性センター，千葉市．

森雅邦・北澤哲弥・熊谷宏尚．2011. 里山里海の保全再生における経済的取組．千葉県生物多様性センター研究報告 .4:207-214. 千葉県生物多様

他機関への支援活動・研究業績等

性センター, 千葉市.

中村俊彦・北澤哲弥 .2011. 概要：ちばの里山里海サブグローバル評価ー生物多様性ゆたかな持続可能な社会に向けてー . 千葉県生物多様性センター研究報告 .4:3-6. 千葉県生物多様性センター, 千葉市.

中村俊彦・北澤哲弥 .2011.「国連ミレニアム生態系評価（MA）」と「日本の里山・里海評価（JSSA）」に基づく「ちばの里山里海サブグローバル評価」. 千葉県生物多様性センター研究報告 .4:8-14. 千葉県生物多様性センター, 千葉市.

中村俊彦・北澤哲弥 .2011. 里山里海と都市の生態系 . 千葉県生物多様性センター研究報告 .4:35-41. 千葉県生物多様性センター, 千葉市.

中村俊彦・北澤哲弥・小倉久子・吉田正彦 .2011. 持続可能な社会に向けた将来シナリオ . 千葉県生物多様性センター研究報告 .4:236-249. 千葉県生物多様性センター, 千葉市.

小倉久子・宮嶋義行・北澤哲弥 .2011. 里海の利用と生態系サービス . 千葉県生物多様性センター研究報告 .4:152-177. 千葉県生物多様性センター, 千葉市.

柳研介・浅田正彦・北澤哲弥 .2011. 千葉県における野生生物の現状 . 千葉県生物多様性センター研究報告 .4:53-69. 千葉県生物多様性センター, 千葉市.

教育普及書

北澤哲弥 . 2010. 里山里海の将来シナリオ . 平成 22 年度ちばの里山里海サブグローバル評価シンポジウム資料集「里海-人と自然がつむぎだす豊穡の海」.p.18-19. 千葉県環境生活部自然保護課, 千葉市.

北澤哲弥 . 2010. どうやって日本にくるの？ . 千葉県生物多様性ハンドブック 2 外来生物がやってきた .6-7. 千葉県環境生活部自然保護課, 千葉市.

北澤哲弥 . 2010. ペットを外来生物にしないために . 千葉県生物多様性ハンドブック 2 外来生物がやってきた .14-15. 千葉県環境生活部自然保護課, 千葉市.

委員等

船橋市 環境基本計画策定委員

船橋市 総合計画審議会委員

千葉県生物多様性センター 年報 3

平成 24 年 3 月発行

発 行 千葉県環境生活部自然保護課

編 集 千葉県環境生活部自然保護課生物多様性戦略推進室
生物多様性センター

〒260-0852 千葉市中央区青葉町 955-2（県立中央博物館内）

電話：043-265-3601 ファクシミリ：043-265-3615

URL http://www.bdcchiba.jp

印 刷 株式会社 さくら印刷 （千葉県茂原市下永吉 339-1）

